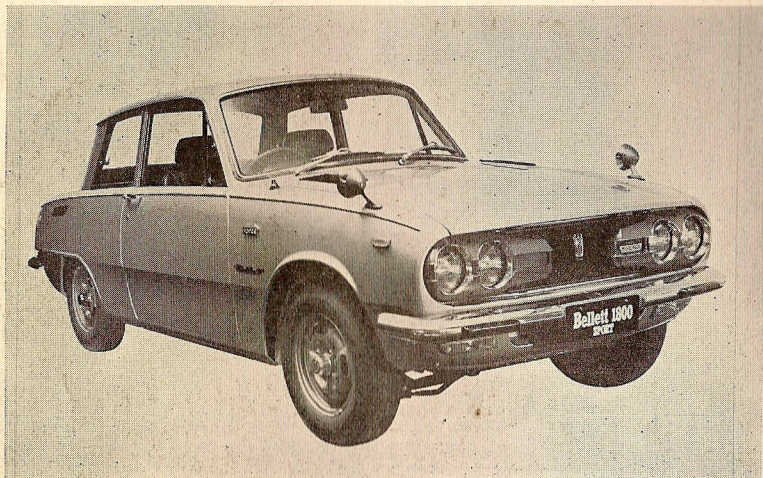




「ベンツ」
取扱説明書
PR60 スポーツ

Bellert

いすゞ自動車株式会社



いすゞベレット

ご購入ありがとうございます。

本書にはベレット1800スポーツの

取り扱い方法を収めました。

運転される前に

ぜひ、一度お読みください。

ご愛用車を常に最良の状態、

最高の機能のもとで

ご使用いただけます。

品質保証とサービス

いすゞ自動車は、弊社の製品がお客さまに満足してご使用いただける信頼性の高い品質であることを保証いたします。

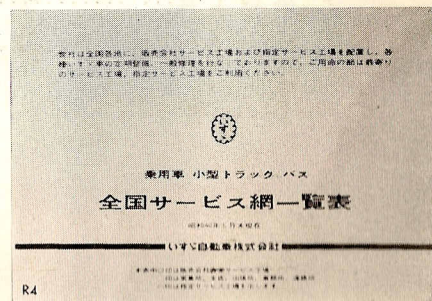
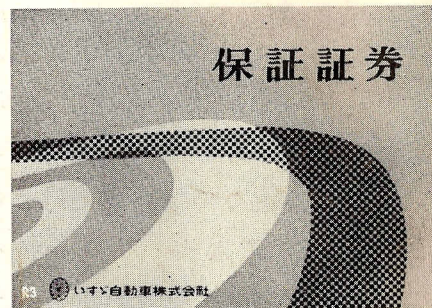
新車の保証期間

新車の保証期間は新車を登録した日から1年間または20,000kmまでです。ただし、エンジン内部機構、動力伝達機構、前後車軸機構、ステアリング機構の主要機構については2年間または50,000kmまでといたします。詳しくは保証証券をごらんください。

なお、新車点検、定期点検は《いすゞサービス網》をご利用ください。最初の1,000km, 3,000km時の新車点検は無料で受けられます。

いすゞサービス網

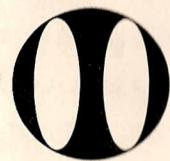
いすゞでは、いつでもどこでも安心してお車をご使用いただけるよう、全国各地に販売会社サービス工場および指定サービス工場を配置し、いすゞ車の定期点検整備および一般修理を行っておりますので、ご用命の節はお気軽にご利用くださるようお願いいたします。全国サービス網一覧表には、販売会社直営サービス工場、営業所、支店、出張所および指定サービス工場が記載されています。



目 次

シャシー番号・エンジン番号	1
キ	2
運 転 装 置	3
各種装置の取り扱い	5
新車の取り扱い	23
運転のポイント	24
仕 業 点 検	28
定 期 点 検	33
搭 載 工 具	34
簡単な保守と整備	35

ボデーの手入れ	44
純 正 品	47
簡単な故障診断	50
仕 様	54
走行性能曲線	56
配 線 図	57
定期手入れ・給油表	60
仕業点検項目一覧表	61
定期交換部品項目表	62
点検整備方式	63



Bellett 1800 SPORT

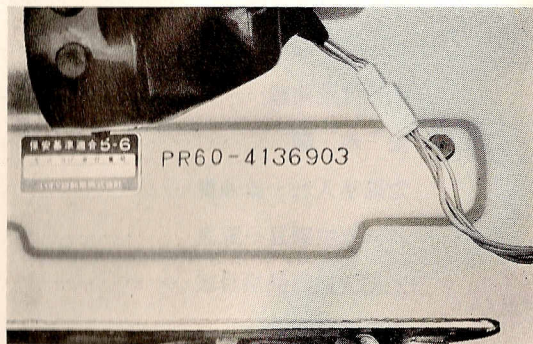
シャシー番号、エンジン番号は、図の位置に刻印されています。

車にとって大切な番号ですから、必ず記録しておいてください。

※ シャシー番号打刻位置

エンジンルーム内ダッシュボードの左側に刻印してあります。

例：P R60-4136903
(型式)-(番号)

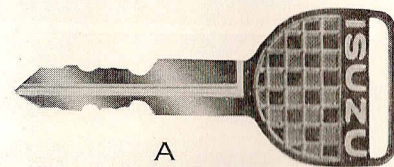
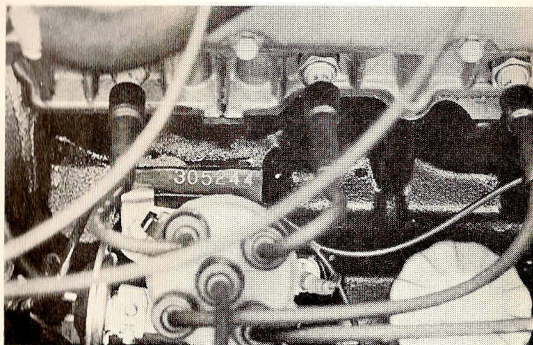


※ エンジン番号打刻位置

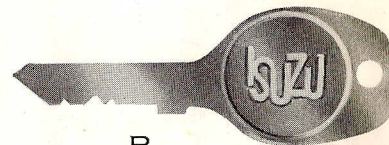
エンジンボデー右側中央部に刻印してあります。

例：305244

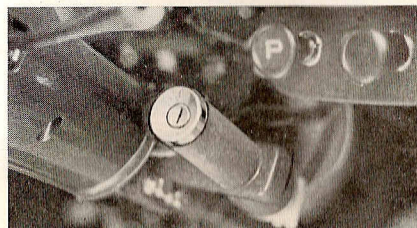
なお、エンジン型式(G180)はエンジンボデー右側下部に鋳込み浮き出し文字で表示してあります。



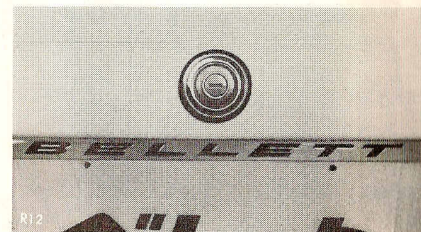
A



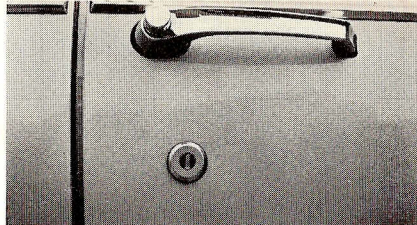
B



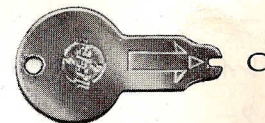
イグニッションスイッチ



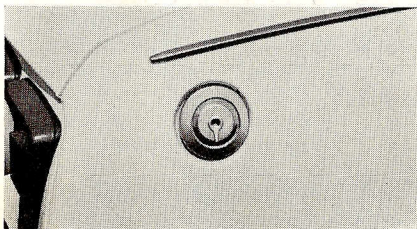
トランク



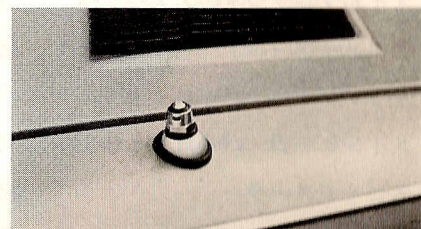
ドア



R13



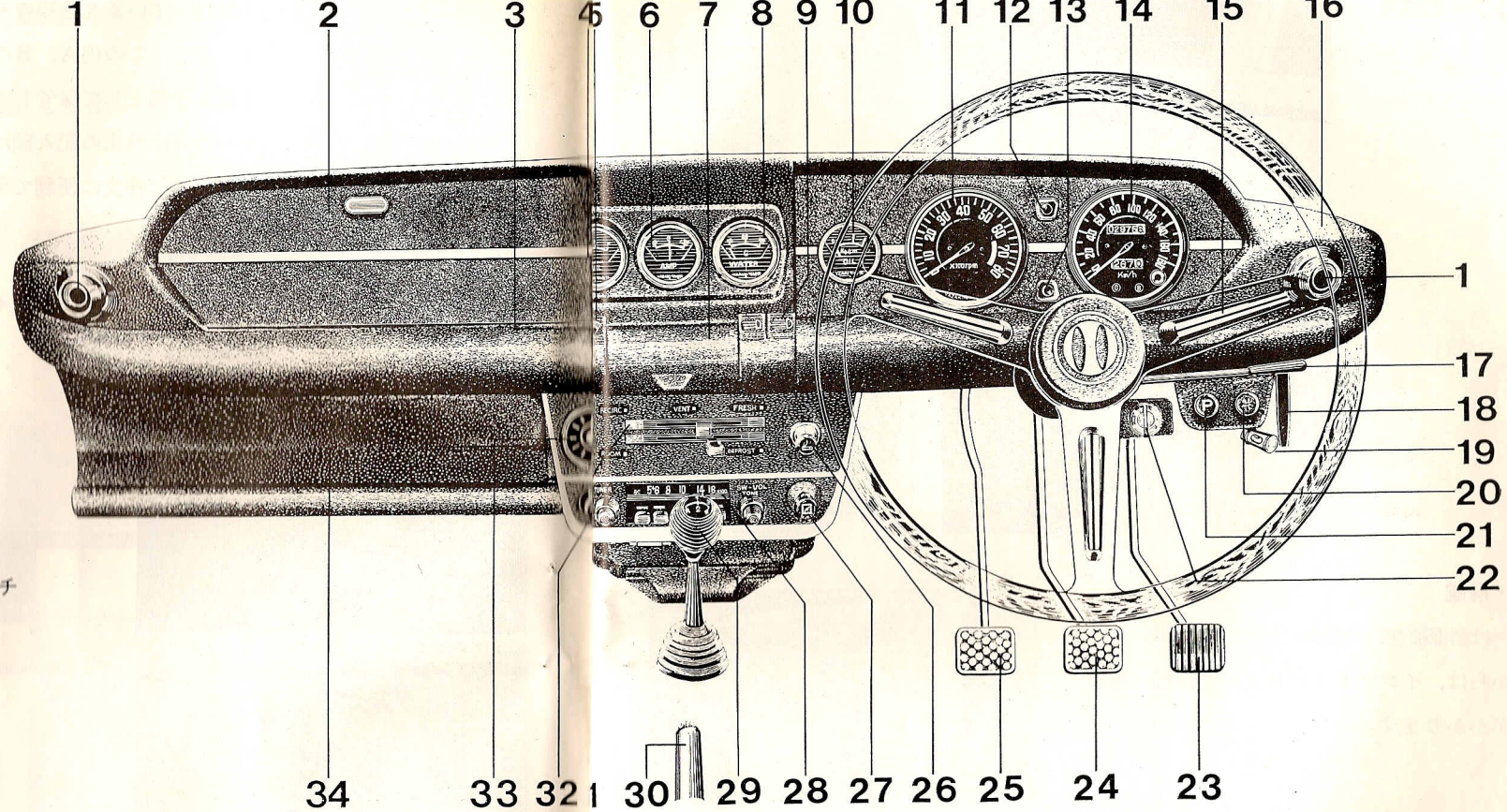
フューエルタンク・キャップ



アンテナ

車に付いている3種類のキーは、それぞれ下記箇所に使用します。また、この内A、Bのキーは2個ずつ付けてありますから、1組を予備として保管してください。

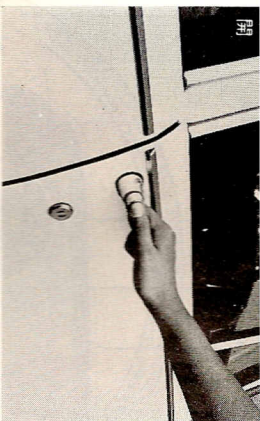
キー番号は巻末の記入欄に記録しておいてください。万一紛失した場合のご注文に便利です。



- 1 サイドデフロスター
- 2 グローブボックス
- 3 スクリーンウォッシャー・スイッチ
- 4 フューエルメーター
- 5 ワイパースイッチ
- 6 アンメーター
- 7 アッシュトレイ
- 8 サーモメーター
- 9 ライティングスイッチ
- 10 オイルプレッシャー・メーター
- 11 タコメーター
- 12 フラッシャー・パイロットランプ
- 13 メインビーム・パイロットランプ
- 14 スピードメーター
- 15 ホーンスイッチ

- 16 ステアリングホイール
- 17 コンビネーションスイッチ・レバー
- 18 ボンネット・レリーズレバー
- 19 非常信号用具
- 20 4ウェイフラッシャー・スイッチ
- 21 パーキングランプ・スイッチ
- 22 イグニッション&スタータースイッチ

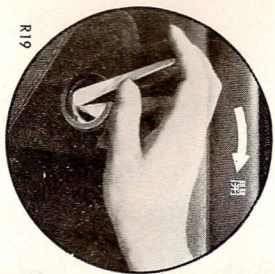
- 23 アクセルペダル
- 24 ブレーキペダル
- 25 クラッチペダル
- 26 シガーライター
- 27 チョークコントロール・ノブ
- 28 ラジオ
- 29 ギヤーコントロール・レバー
- 30 パーキングブレーキ・レバー
- 31 ヒーターコントロール
- 32 デフォグガースイッチ
- 33 クロック
- 34 パーセルシェルフ



外側から



内側から

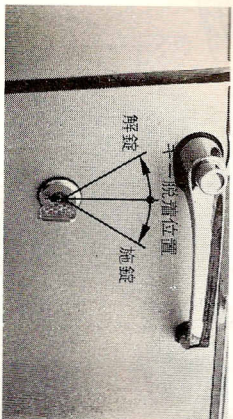


R19

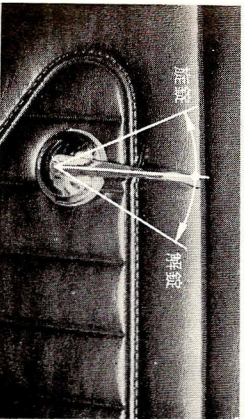
施錠・解錠

ドアは外側からキーでロックできます。

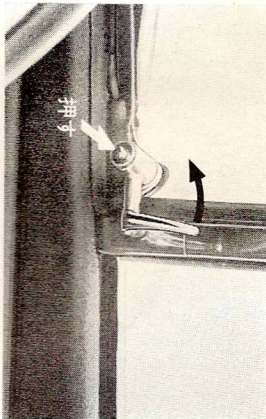
内側からは、インサイドハンドルを前側に倒すと錠がかかります。



ドア-外側から



全ドア-内側から



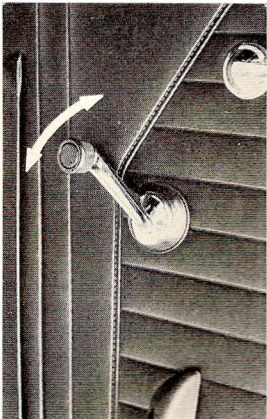
窓 カラスの開閉

前側三角窓

ボタンを押したまま、レバーを回すとロックがはずれます。

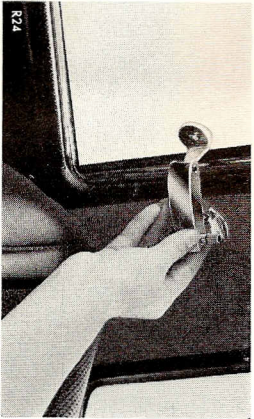
ドア-ガラス

レギュレーターハンドルを回して行かないです。



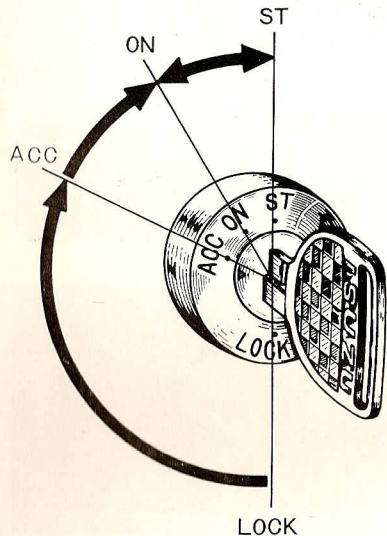
後側三角窓

キャッチハンドルを手前に引くと開きます。



R24

イグニッション、スタータースイッチ
およびステアリングロック



LOCK この位置でのみ、キーの出し入れができます。

キーを抜いてから、ステアリングホイールを右または左へ回してロックしたことを確認してください。ロックする位置はステアリングホイール一回転で二箇所あります。

ランプ類、時計
シガーライター
フラッシャー、ホーン } を除くすべての電気系統のスイッチが切れます。

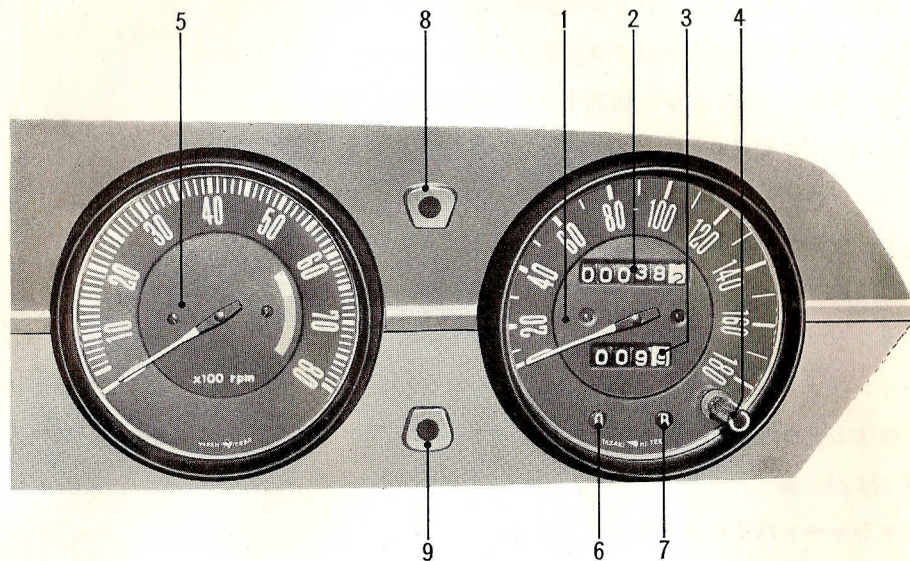
※走行中は絶対にキーを抜かないでください。

ACC エンジンを止めたまま、ラジオを聞くことができます。キーをLOCK位置からACC位置に回転させようとしますと作動が非常に重くなります。これはタイヤの復元力によるものですから、ステアリングを右または左へ軽くまわして、キーを回転させますと軽く解錠できます。無理に回転させますと、ステアリングロック機構の内部に損傷を招くおそれがあります。

ON エンジンの点火系統をはじめ、すべての電気系統に電流が流れます。

ST スタータースイッチが入り、エンジンを始動します。手を離すと、キーは自動的にこの位置にONもどりますから、エンジンが始動したら直ちに手を離してください。

※ コンビネーションメーター



- | | | | |
|---|---------------|---|--------------------|
| 1 | スピードメーター | 6 | オイルプレッシャー・パイロットランプ |
| 2 | トータルメーター | 7 | パーキングブレーキ・パイロットランプ |
| 3 | トリップメーター | 8 | フラッシャー・パイロットランプ |
| 4 | トリップメーターもどしノブ | 9 | メインビーム・パイロットランプ |
| 5 | タコメーター | | |

※スピードメーター

トータルメーター

全走行距離をkmで示します。黒字は0.1km単位です。

トリップメーター

いつでも目盛を0にもどすことができる距離計です。

目盛を0にするときは、トリップメーターもどしノブを右に回します。

※タコメーター

エンジンの毎分回転数を示します。レッドゾーンまで回転を上げることは避けてください。

オイルプレッシャー・パイロットランプ

エンジンオイルの油圧警告灯です。イグニッションスイッチをONにすると点灯し、エンジンを始動すると自動的に消えます。

※走行中、ランプが点灯するときは、油圧が低下しています。

すぐエンジンを止めて、エンジンオイル量を点検してください。

もし、規定油量が入っているときは潤滑系統の故障が考えられます。最寄りの《いすゞサービス網》で点検を受けてください。



R29

パーキングブレーキ・パイロットランプ

パーキングブレーキを引いているとき、イグニッションスイッチをONにすると点灯してパーキングブレーキを効かせたままの発進を防ぎます。



R30

フラッシャー・パイロットランプ

フラッシャースイッチを操作すると、フラッシャーランプと同時に点滅します。



R31

メインビーム・パイロットランプ

ヘッドランプのメインビーム（上向き）を使用しているときに点灯します。

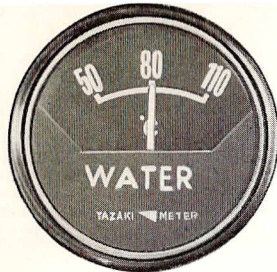
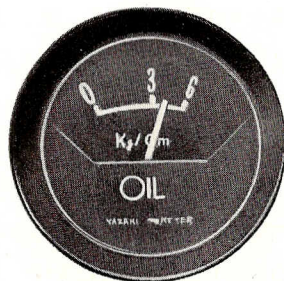


R32

※ オイルプレッシャー・メーター

エンジンが回転しているとき、エンジンオイルの圧力を示します。油圧は3~4kg/cm²が標準です。

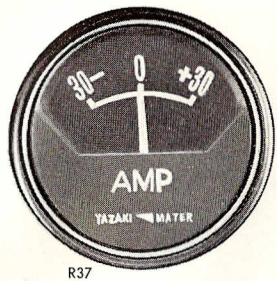
※エンジンの回転を上げて2kg/cm²以下を示したり、低回転で針が振れる場合には、オイルプレッシャー・パイロットランプ点灯時と同じ点検を行なってください。



※ サーモメーター

イグニッションスイッチをONにすると、エンジンの冷却液温度を示します。約70°~80°Cが適温です。

※オーバーヒートした時は、直ちに車を止めて、エンジンを低速回転にしたままボンネットをあけて自然冷却してください。

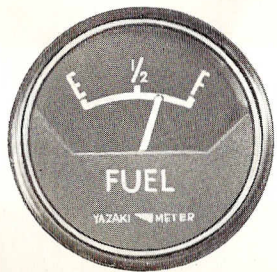


R37

※ アンメーター

バッテリーの充放電量を示します。

※エンジン回転の高いとき、または昼間走行中に針が（-）側を指すときは充電系統の故障が考えられます。最寄りの《いすゞサービス網》で点検を受けてください。



※ フューエルメーター

イグニッションスイッチをONにすると、フューエルタンク中のガソリン量を示します。Fは満量、Eは空量に近いことを示します。



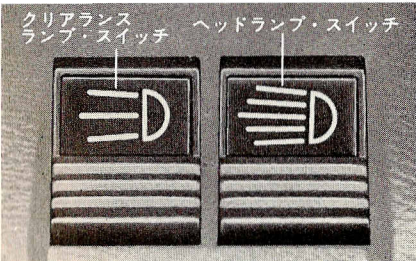
※ チョークコントロール・ノブ

ノブを引くとエンジンの吸入混合気が濃くなって、寒冷時の始動を容易にします。暖機運転が済んだら、必ずノブをもとの位置までもどしてください。

※ ハイテイングスイッチ

クリアランスランプ・スイッチで——クリアランスランプ、テールランプ、ナンバープレートランプ、メーターパネルランプが点灯します。さらにヘッドランプ・スイッチを押すと——ヘッドランプが点灯します。

クリアランスランプ・スイッチをもどすと、ヘッドランプも消灯します。



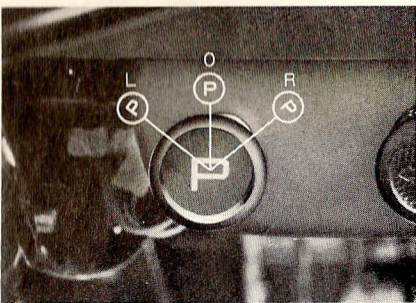
※ パーキングランプ・スイッチ

夜間路上で長時間駐車するとき使用します。スイッチは3段に作用しますので駐車状況により使い分けれます。

③位置 ノブを右に1段回してから引くと、右側前後のパーキングランプが点灯します。

②位置 ノブを引くと、前後左右のパーキングランプが点灯します。

①位置 ノブを左に1段回してから引くと、左側前後のパーキングランプが点灯します。

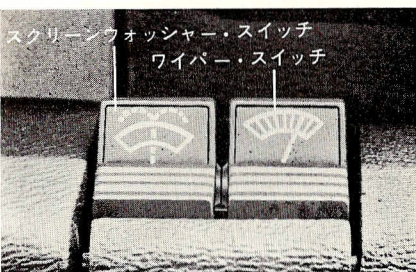


※ ワイパースイッチ

2スピード式です。1段押しと低速、さらに押しと高速になります。

雨の量によって使い分けれます。

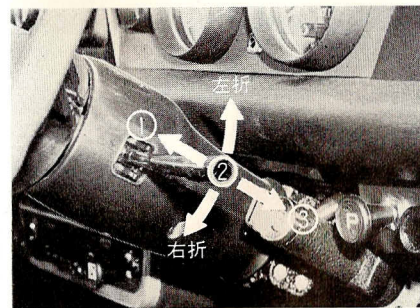
※ ガラスが乾いているとき、ワイパーを作動させますと、砂、ホコリ等でガラスを傷付けます。必ず、スクリーンウォッシャーを使用してください。



※ スクリーンウォッシャー・スイッチ

スイッチを押すと、フロントガラスに洗浄液が噴出します。

フラッシャースイッチ、ディマスイッチおよびパッシングライトの操作はコンビネーションスイッチ・レバーで行ないます。



※ フラッシャースイッチ

左折または右折のとき、レバーを図の方向に操作すると、フラッシャーランプが点滅します。ステアリングホイールをもどすと、レバーは自動的にもどります。

※ ディマスイッチ

レバーは③位置でヘッドランプ上向き、②位置でヘッドランプ下向きになります。

ヘッドランプを上向きにすると、メーターパネルのメインビーム・パイロットランプが点灯します。

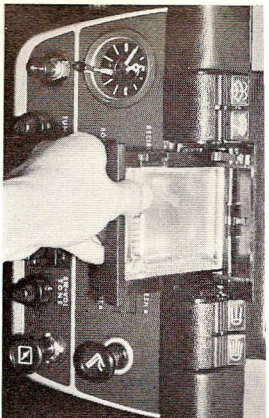
※ パッシングライト

レバーを①位置にするとライティングスイッチのON、OFFに関係なくヘッドランプの上向きが点灯します。

手を離すとレバーは②位置にもどります。

この操作の繰り返しで、昼間はヘッドランプが点滅し、夜間はヘッドランプの上向き、下向きの繰り返しとなり追越の合図となります。

フロントにはフアンジヤ中央に、リヤは足元のトネル上に取り付けてあります。
清掃の際は、図のようにして抜き出すことができます。



フロント

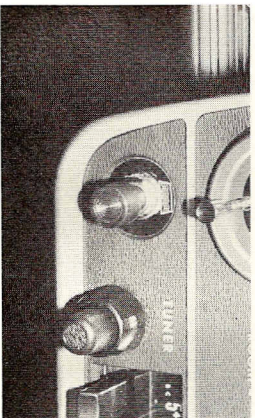


R33
リヤ

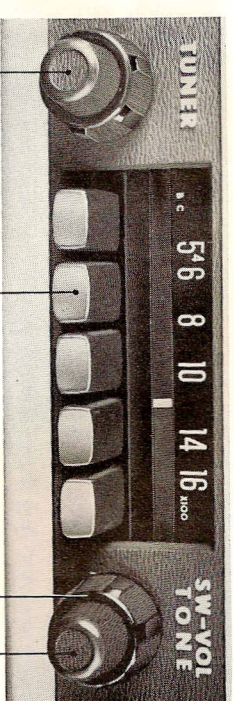
シガーライター
ノズを強く押し込むと、数秒後にもとの位置までとび出しますから、引き抜いてお使いください。



シガーライター



デフォッガースイッチ
バックライト・ガラスに熱線プリントデフォッガーを装備してあります。バックライト・ガラスが曇ったときにお使いください。
イグニッションスイッチONのとき、ノズを押すと作動し、同時にノズのバイロットランプが点灯します。停止するときは再度ノズを押します。



R38
選局ダイヤル

フッシュボタン

音質調整ツマミ

スイッチ・音量調整ツマミ

アンテナ

アンテナキーを差し込むと一段とび出します。

スイッチ・音量調整ツマミ

スイッチはフッシュ式です。ツマミを回すと音量を調整できます。

音質調整ツマミ

ツマミを回すと音質が調整できます。

選局ダイヤル

ダイヤルを回すと、お好みの放送が選局できます。

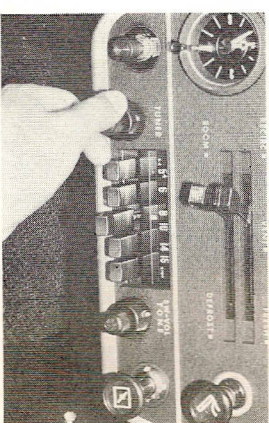
選局フッシュボタン

ボタンを押すことにより、あらかじめセットしてある放送を選局します。

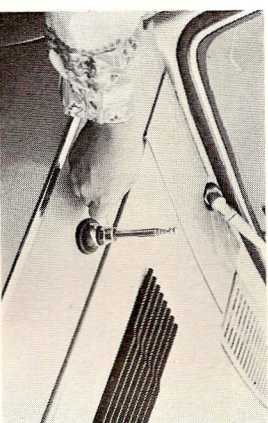
セットは次のように行ないます。

- ①合わせようと思うボタンを手前に引き出します
- ②選局ダイヤルを回して、ご希望の局に合わせま

す。
③引き出したボタンを静かに、いっぱい押し込みます。

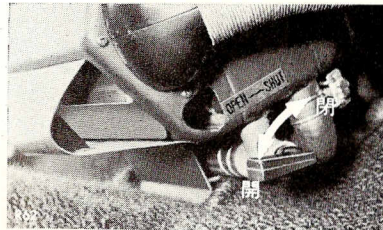


フッシュボタン



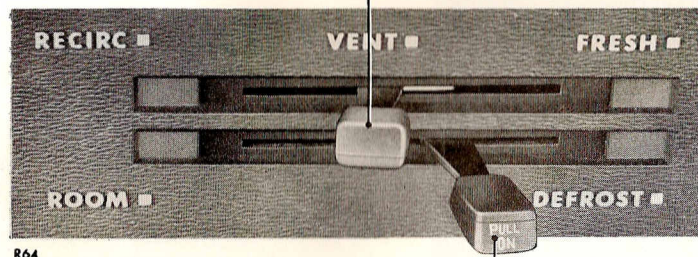
※ ヒーターおよびベンチレーター

ヒーターはエンジンの温水で空気を暖める方式です。ヒーターを使う季節の初めに、ファシア下のヒーターコックを開いておくと、あとは2本のレバーでコントロールできます。



ヒーターコック

外気の導入割合を調節します。室内循環 ↔ 外気導入
室内を早く暖めたいときは左側位置にします。

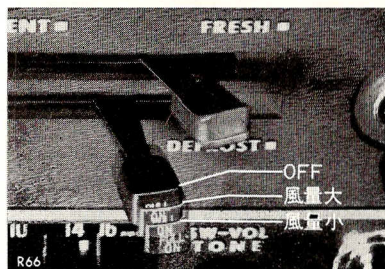


R64

ヒータースイッチ兼風量調節
室内暖房 ↔ フロントガラスくもり止め (デフロスター)

ヒータースイッチ

レバーを引くとスイッチがONになります。スイッチは2段に作用して、風量が調節できます。

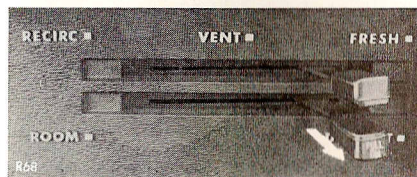


R66

※ 外気導入レバーを室内循環したままにしますと、室内の湿度が上って窓ガラスがくもり易くなります。室内が暖まったらFRESH側にして新鮮な外気を暖めて入れるようにします。

夏期、ガラスのくもり止めには

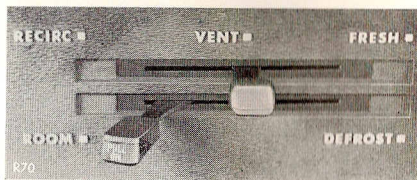
ヒーターコックを閉じたまま、2本のレバーを左図位置にして、スイッチをONにします。



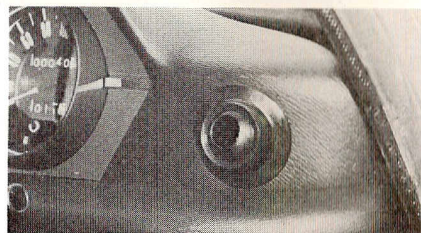
R68

ベンチレーターとして使うには

上側のレバーをVENTにして走行しますと、車前方から新鮮な外気が流れ込みます。



R70



※ サイドデフロスター

三角窓用デフロスターでヒーターと連動しています。風向きは指先で自由に調節できます。

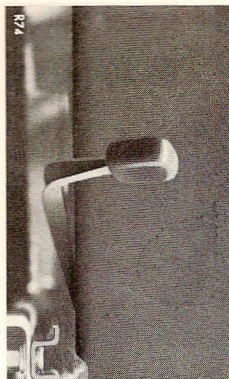
※ フロントシートの調整

適確なシートの調整は疲れない運転をお約束します。運転の前に、あなたに一番適したシート位置にセットしてください。

前後位置の調整

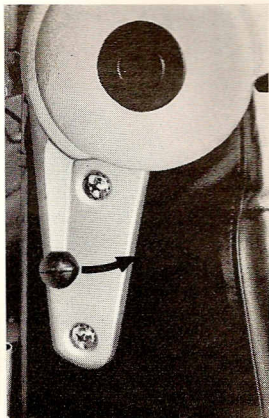
アジャストレバーを外側に引くと、シートをスライドできます。

レバーから手を離すと、シートは固定します。



角度の調整

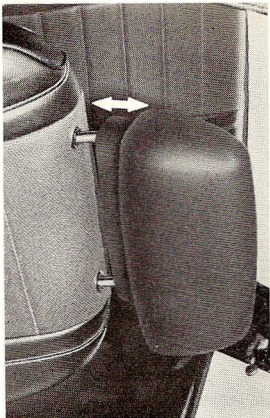
レバーを引き上げると角度の調整ができます。リヤシートへ出入りするときには、背当てをいっばい前へ倒してください。



※ ヘッドレスト

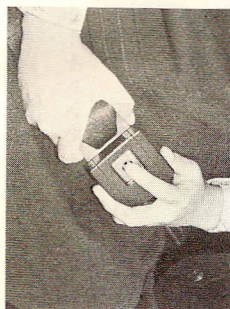
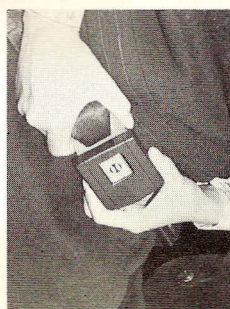
高さの調整ができます。

ちようど良い高さでお使いください。



※ センターベルト

フロントシートには2点式の安全ベルトが付いており、急制動や、不慮の事故からあなたを守ります。



①ベルトをかけるときは、バックルを軽く差し込みます。

②長さの調節は、ベルトの端を引いて行ないます。

③取りはずしは、バックルカバーの中央部を押して行ないます。

フロントシート用3点式、リヤシート用2点式センターベルトはオプションとして用意されており、ベレットにはそのためのアンカーが取り付けられます。取り付けの際は、いっばい販売店へご相談ください。



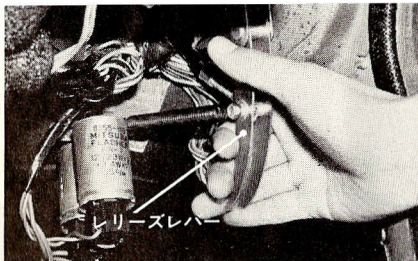
※ サンバイザー

回転すると横からの光も防ぐことができます。

※ ホンネットの開閉

ボンネット・リリースレバーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。ボンネットに手をかけていっぱいを開いてください。

しめるときはボンネットをおろし、後端を強く押してロックしてください。



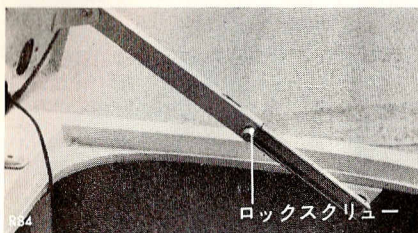
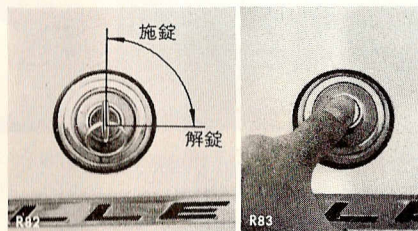
※ トランクの開閉

施錠・解錠はトランクキーを使用します。

プッシュボタンを押すとトランクリッドが少し浮き上がります。手をかけてカチッとストッパーの音がするまで持ち上げます。

閉めるときは、トランクリッドをさらに上げてストッパーのはずれる音がしてから静かにおろします。

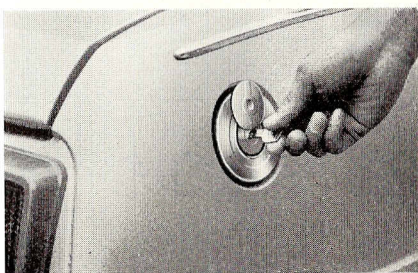
なお、ロックスクリューをねじ込むと、開けたまま固定されます。



※ フューエルタンク・キャップの開閉

キャップにキーを差し込み、右に回すとロックがはずれます。

キャップをはめるときは、キャップの裏側の切欠きを合せて強く押し込んでください。自動的にロックします。

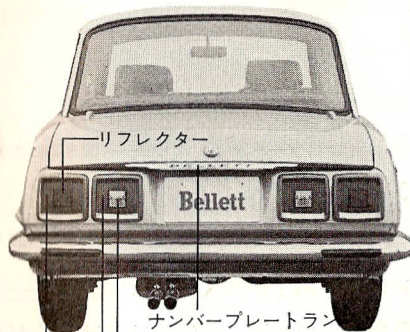


※ガソリンはハイオクタンガソリンを使用してください。

※ ファン類



- フラッシャークリアランプ
—パーキングランプ
- ヘッドランプ
- サイドフラッシャーランプ



- リフレクター
- ナンバープレートランプ
- バックアップランプ
- ストップ&テールランプ
- フラッシャー、テール&パーキングランプ

次のことに注意してください。

※ 新車点検

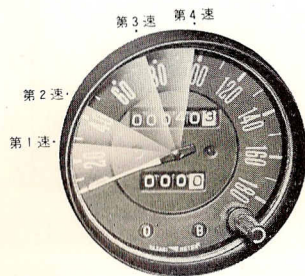
1,000km, 3,000kmの新車点検は、必ず受けてください。

※ 最高速度

1,000km まではエンジン最高回転数を 3,500

回転以下におさえてください。この時の各ギヤ
ーの最高速度は右図のようになります。

その後は徐々に最高速度を上げながら、低速か
ら高速までならしを行ないます。



※ 厳守すること

①エンジン始動後、冷却水温が上がるまでしばらく暖機運転を行
なってから走行してください。

チョークコントロール・ノブを長い時間引いておきますと、プラ
グがくすぶりやすく、エンジンの調子が悪くなります。

②エンジンの空ふかし、急発進、急加速、急制動はさけてくださ
い。

正しい運転は車の寿命をのほし、燃料、オイル
などの節約にもなります。

常に安全で経済的な運転をするよう心がけまし
よう。

※ エンジン始動

エンジンが暖まっているとき……

アクセルペダルを少し踏み込んでやるだけで容
易に始動します。

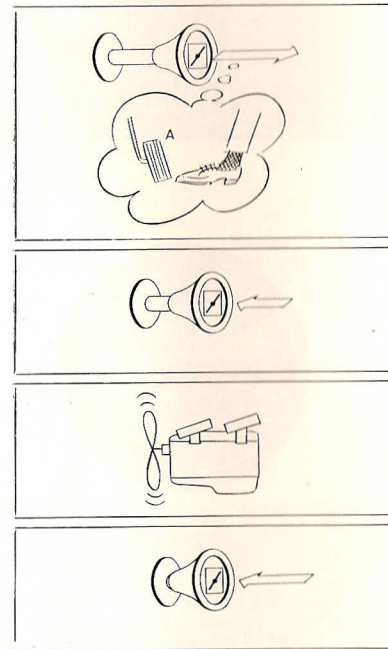
エンジンが冷えているとき……

①チョークコントロール・ノブを引いてアクセ
ルペダルを踏まずにエンジンを始動します。

②エンジンの回転が円滑になるところまで、チ
ョークコントロール・ノブをもどします。

③冷却水温が上がるまで暖機運転をします。
不必要に空ふかしをしてはいけません。

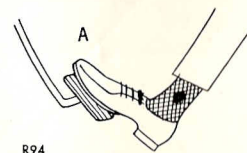
④暖機運転が終わったら、チョークコントロール
・ノブを完全にもどします。



※ 始動困難なとき

①始動しない場合には、アクセルペダルを踏み
続けたまま数回スターターを回してください。

②スターターは長く続けて使用しないで、しば
らく休めてから始動するようにしてください。



R94

図に示しても始動しない場合は、エンジンの燃料・電気系統の点検を行なってください。

※スターターは15秒以上回し続けしないでください。スターターやバッテリーを非常にいためます。

※ 車の発進

①発進前にメーター類、パイロットランプ類を必ず確認してください。

②発進は、第1速ギヤーから静かに行ないます。半クラッチを長く使用したり、空ふかしをすることは禁物です。

※ 走行

①ならし期間が過ぎてもエンジンを過回転させないよう、各ギヤーの最高速度は右図の範囲内におさえてください。

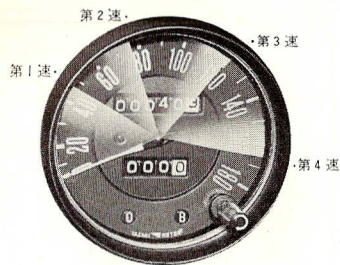
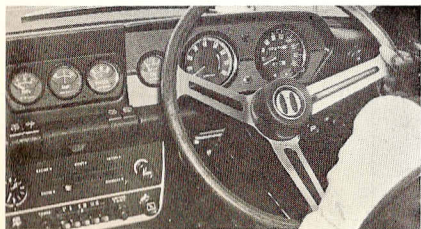
②走行中もメーター類、パイロットランプ類に注意してください。

③後退ギヤーへの変速は、車が完全に止まってから行なってください。

④登り坂では、早めに変速してエンジンに無理がかからないようにします。

⑤長い下り坂や、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用します。

⑥エンジンブレーキをかける場合は、エンジン回転数を3,500~4,000回転に下げってからシフトダウンしてください。



※ 経済的な運転

経済的な運転を望まれる方は次のことに注意してください。

①高速運転や、フッキングが起る程の低速運転は燃費を悪くします。

②加速はギヤーを早めにチェンジし、静かに行ないます。

③第4速まで変速した後は、できるだけ一定のスピードで走るのもポイントの1つです。

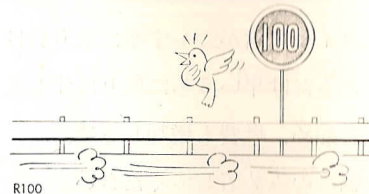
④適正な冷却液温で走りましょう。

⑤タイヤ圧が低すぎると燃費を悪くします。

※ 連続高速走行

高速走行に入る前に、タイヤ圧をチェックする習慣をつけましょう。

連続して高速走行する場合はタイヤ圧をフロント1.8kg/cm²、リヤー2.1kg/cm²に上げてください。



※ 寒冷期の運転

①エンジンの冷え過ぎは、エンジンの摩耗を早めます。寒冷地ではラジエーターカバーを準備し、エンジンの過冷を防ぎます。

②冬は寒さのためエンジンオイルが硬くなります。冬期用の低粘度のオイルを使いましょう。

③冬は、ランプ類、ヒーターなどを使用する機会がふえて、バッテリーの消耗が多くなります。常にバッテリーを完全充電状態（液比重



1.260/20°C)に保つよう点検しましょう。

※ 雪上の走行

- ①タイヤチェーンを付けるか、スノータイヤを使用します。
- ②できるだけ急変速や急停止をしないですむ運転を考えましょう。
- ③ブレーキ、ハンドルは小きざみに使用します。
- ④エンジンブレーキを活用しましょう。



※ タイヤチェーンについて

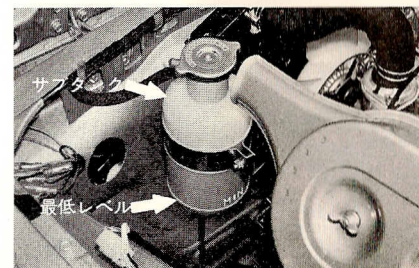
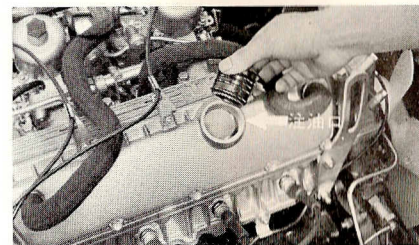
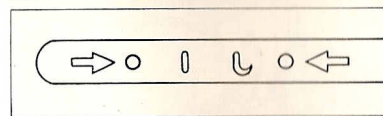
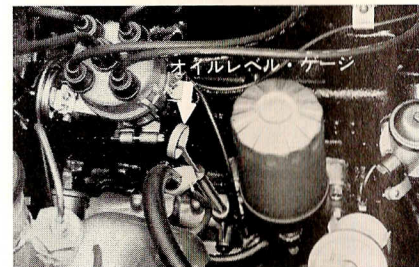
タイヤチェーンの取り付けは雪路に入る前に行なうと、タイヤに雪がつかず楽に取り付けられます。また、チェーン装着の必要がなくなったら、できるだけ早いうちに取りはずしましょう。チェーンを装着して一般道路を走行するとタイヤを痛め、燃費も増加します。

※タイヤチェーンは前輪には取り付けられません。後輪にのみ装着してください。

あなたのいすゞペレットをいつでも安心してご使用いただけるよう、日常、次の事項を点検されるようお願いいたします。

なお、この内見出し記号が★の項目は、道路運送車両法により運転者に義務づけられた作業点検項目ですから、運転の前に必ず点検を行なってください。

法律で定められた作業点検項目（高速走行時を含む）の一覧表を61ページにのせてありますのでご参照ください。



★ エンジンオイル

エンジンオイル量の点検は、エンジンを始動する前に行ないます。

まず、オイル・レベルゲージを引き抜き、きれいな布でぬぐいます。次にレベルゲージを再び差し込み静かに抜き出します。

オイル量が上下矢印の間であれば適量です。

下の矢印以下のときは注油口から補給します。

※オイルの交換は1,000kmのなりし運転が終了したときにまず行ない、その後5,000kmごとを標準とします。

★ エンジン冷却液

サブタンク中の冷却液量を見てください。MIN以下のときは冷却液の漏れを調べ、サブタンクに補液します。（35ページ参照）

補液後はキャップを確実に装着します。

ファンベルトの中間を指で押して、そのたわみが約10mmあれば標準です。(調整方法は36ページ参照)また、ファンベルトに傷やき裂がないか点検します。

※ スクリーンウォッシャー液

洗浄液が少ないときは補給しておきます。

洗浄液は《いすゞウィンドウォッシャー・フルード》(48ページ参照)を水で薄めて使用します。

※ バッテリー

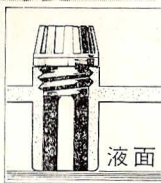
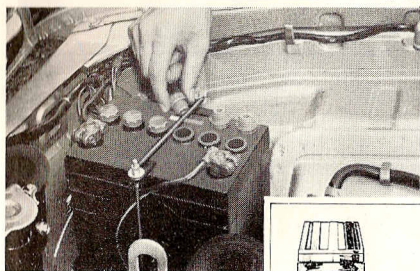
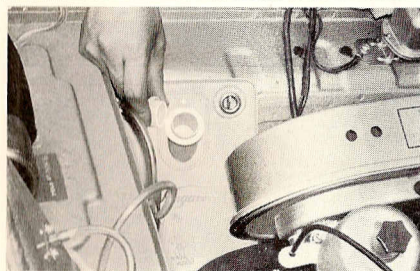
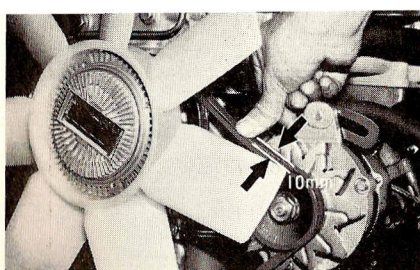
バッテリーの液が図の位置まであるか点検します。少ないときは蒸留水を補給してください。ターミナルがゆるんでいるときは締め付けます。ターミナル清掃後はグリースを塗布して錆蝕を防ぎます。

※ バッテリー液は希硫酸ですから、衣服等に付けないようご注意ください。

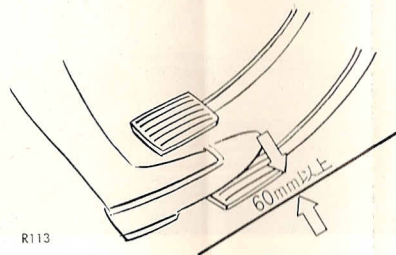
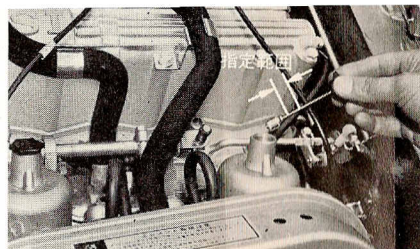
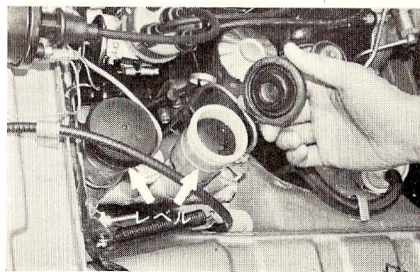
★ ブレーキ液

タンクのレベルまでブレーキ液があれば適量です。少ないときは《いすゞ純正ブレーキ液HGスーパー》を補給します。(48ページ参照)

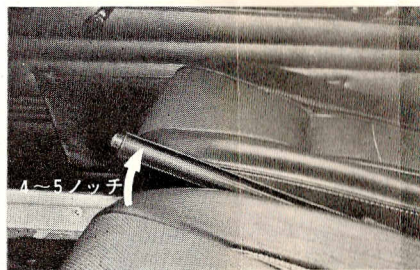
※ ブレーキ液の減り方が著しいときは、最寄りの《いすゞサービス網》で点検を受けてください。ブレーキ液は絶対に他の銘柄と混ぜないように注意してください。



F454



R113



ナットをゆるめるとオイル・ダンパーブラジジャーが抜きとれます。

オイル量は2本のレベル間にあれば適量です。ダンパーオイルはエンジンオイルのSAE 20を使用します。

★ フートブレーキ

ブレーキペダルの遊び(ブレーキの効き始めまで)は約35mmです。

ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき十分に踏みごたえがあって、床板とのすきまが60mm以上であれば正常です。

60mm以下になった場合はブレーキ調整が必要です。(43ページ参照)

★ パーキングブレーキ

ブレーキレバーをいっぱい引いたときの引きしろは4~5ノッチが標準です。

それ以上になった場合はブレーキ調整が必要です。リヤブレーキを調整すると、レバーの引きしろは同時に調整されます。

※ リヤブレーキを正規に調整しても、ブレーキレバーの引きしろが5ノッチを越える場合は《いすゞサービス網》で点検を受けてください。

ステアリング系統にガタがないか点検します。
ホイールの遊びは、外周上で5mm程度が標準
です。

ガタや遊びがあるとき、その他ステアリング系
統に不具合を感じたときは、直ちに《いすゞサ
ービス網》で点検を受けてください。

★ ランプ類

スイッチを操作して、各ランプが正常に点滅し、
またランプに汚れや破損がないか確認します。
ストップランプの点灯も忘れないでください。

★ ホーン、ワイパー、フラッシャー

正常に作動するか点検します。

★ メーター類、パイロットランプ類

各メーターが正常に作動し、パイロットランプ
類が正常点灯し、消えるかを確認します。

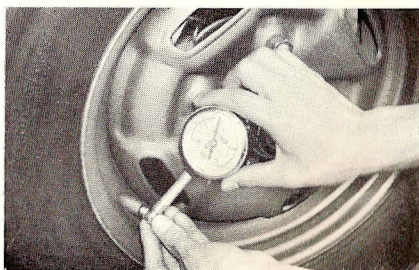
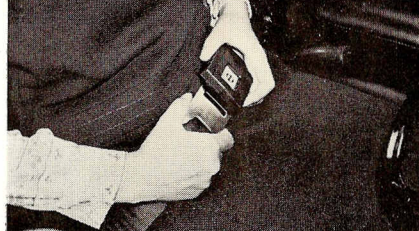
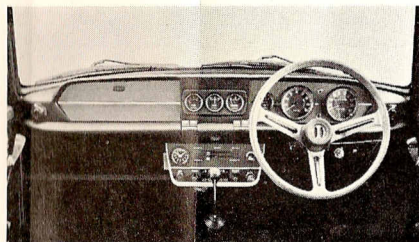
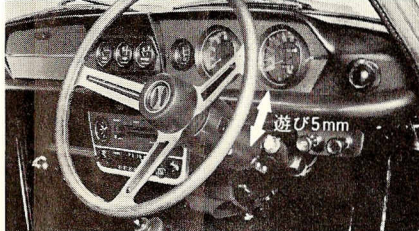
★ 燃料の量

イグニッションスイッチをONの位置にし、フ
ューエルメーターで燃料の残量を点検しし、燃
料の量が目的地まで走るのに十分であるか確か
めます。

Fは満量、Eは空量に近いことを示します。

★ バックミラー、フェンダーミラー

後方の視界が十分か、汚れがないか確認します。



セフティーベルトに損傷がなく、確実に取り付
けられているか点検します。

ドアロックが正常であることを点検します。

★ タイヤの空気圧

タイヤの空気圧は、乗心地、タイヤの寿命に大
きく影響します。

通常走行；前輪1.5kg/cm² 後輪1.7kg/cm²

高速走行；前輪1.8kg/cm² 後輪2.1kg/cm²

空気圧の点検と同時に、タイヤの異常摩耗、き
裂、損傷を点検します。

また、タイヤに金属片、石、その他の異物がな
いか、タイヤの残り溝が十分かを点検します。

★ リフレクター、ナンバープレート

リフレクター、ナンバープレートに汚れ、損傷
がないか点検します。

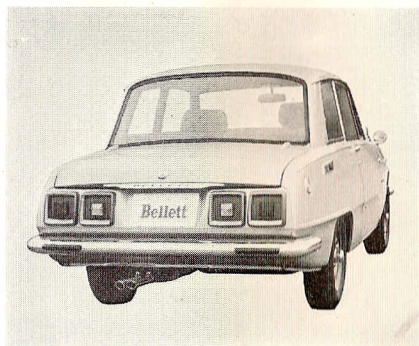
★ 排気の色

チョークコントロール・ノブを完全にもどした
状態で、排気の色が異常でないか点検します。

★ ボデーの傾き

ボデーが異常に傾いていないか点検します。

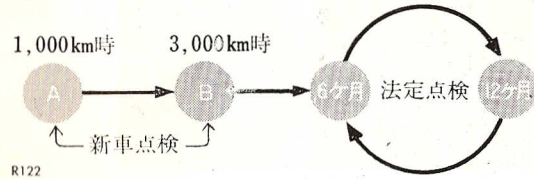
★ 前日の運行で異常が認められた箇所
異常を認めた箇所を確認し、処置します。



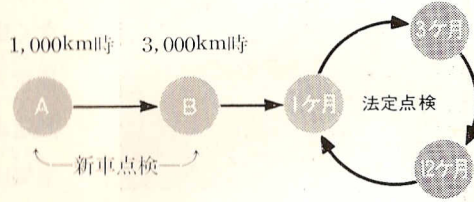
定期点検

乗用車の定期点検

自家用乗用車では



事業用等乗用車では



車の使用者には道路運送車両法により、定期点検の実施とその結果を残す記録簿の記入、保管が義務づけられています。

いすゞでもこの法律の基準に沿って定期点検とその実施時期を定めていますので、この基準に従って定期点検を励行するようお願いいたします。

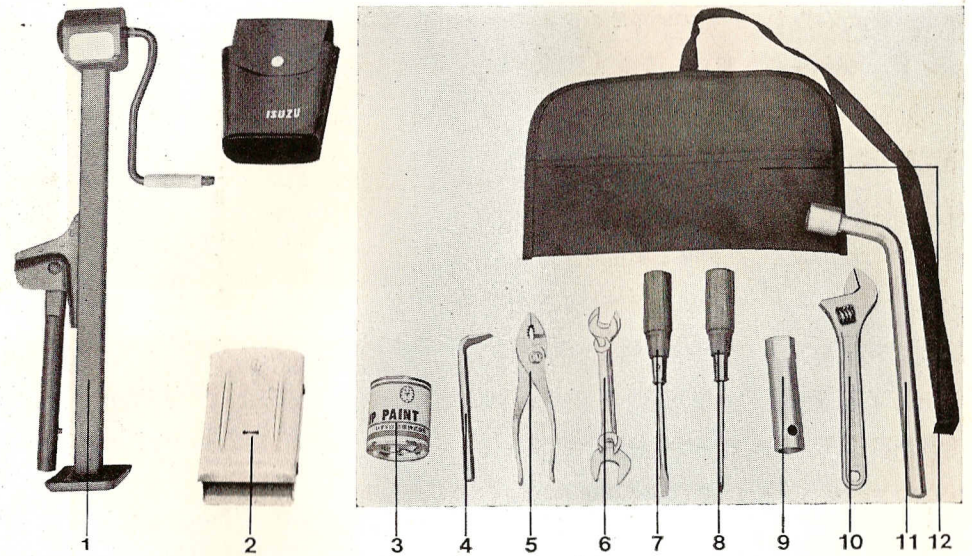
整備手帳には定期点検記録簿、仕業点検項目、定期点検整備項目が入っています。定期点検を実施されるときに十分活用されるようお願いいたします。

搭載工具

工具類はトランク左側に、ジャッキはトランク後側にそれぞれ格納してあります。

しまうときには、悪路走行時に踊らないよう所定の場所にキチッとしましうよう心掛けてください。

補修用塗料はグローブボックスの中に入れてあります。

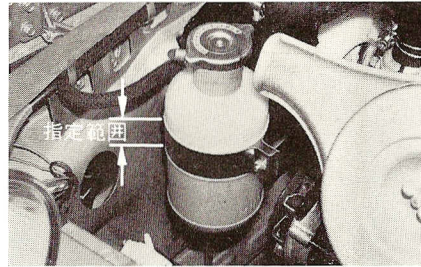


- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| ① ジャッキ | ⑦ ドライバー○ヘッド |
| ② ホールストッパー（輪止め） | ⑧ ドライバー⊕ヘッド |
| ③ 補修用塗料 | ⑨ スパークプラグ・レンチ |
| ④ スパークプラグレンチ・ハンドル兼
ホールキャップはずし具 | ⑩ モンキーレンチ |
| ⑤ プライヤー | ⑪ ホールレンチ |
| ⑥ 3本組両口スパナ | ⑫ ツールバッグ |

簡単な保守と整備 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※ エンジン冷却液

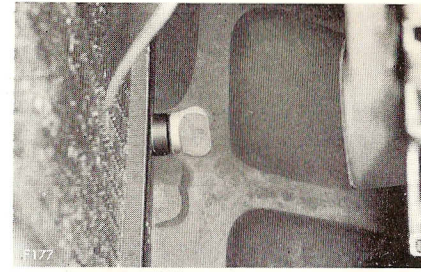
冷却液の交換は2年ごとに行ないます。
交換はラジエーターとサブタンクのキャップをはずしてラジエーターは口元まで、サブタンクは指定範囲まで、それぞれ冷却液を満たしてください。



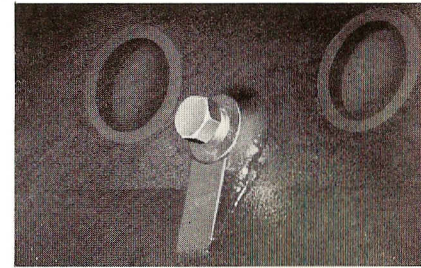
- ※ 冷却液は必ず《いすゞロングライフ・クーラント》(48ページ参照)と清浄な軟水(水道水)を混合したものをご使用ください。指定以外の冷却液を入れたり水だけを補給することは避けてください。
- ※ エンジンが加熱した状態でキャップをはずすときは、キャップを静かにまわして圧力を抜いてから、キャップをはずすようにします。
- ※ -20°C以下の極寒地で使用されるときは、冷却液濃度の変更が必要ですので、最寄りの《いすゞサービス網》にご相談ください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 簡単な保守と整備

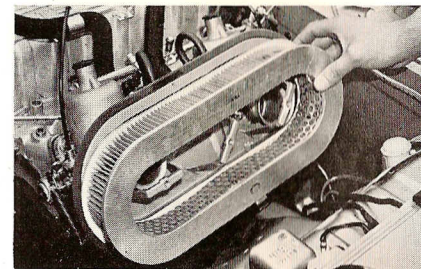
冷却液を交換するには、ラジエーターおよびエンジンボデーのドレーンコックをゆるめて排液します。



ラジエーター下部

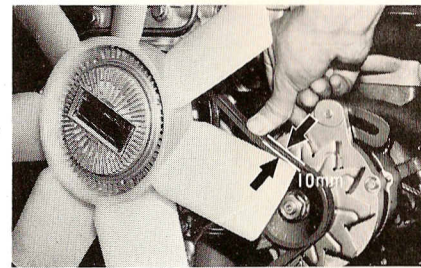


エンジンボデー左中央部



※ エアークリーナー

40,000km ごとにエレメントを交換してください。ビスカス式エレメントを採用していますので、汚れていても性能に影響がありませんから、清掃はしないでください。



※ ファンベルトの張り

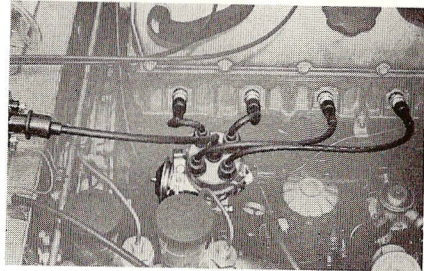
ベルトの中間を親指で押して、たわみが約10mmになるのが標準です。調整は、ジェネレーターブラケット取付けボルトおよびアジャストボルトをゆるめ、ジェネレーターを傾けて行ないます。ベルトの張りは、ゆるくても張りすぎても不具合が生じます。

簡単な保守と整備 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※ ハイテンションコード

プラグ、ディストリビューター、イグニッションコイルの接続がゆるんでいるとエンジン不調の原因になります。

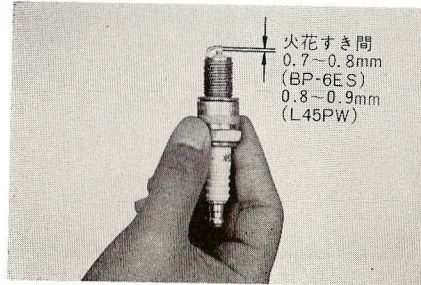
コードの差し込みは常に清潔にして、固く差し込んでください。



※ スパークプラグ

電極がカーボンで汚れている場合、ワイヤブラシ等で汚れを落してください。

火花すき間はシックネスゲージで測定します。

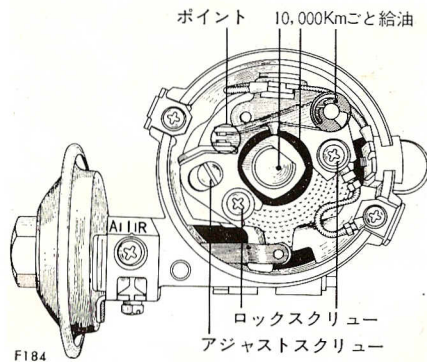


※ ディストリビューター

10,000km ごとに図の3点にグリースを薄く塗布し、キャップとローターを乾いたきれいな布で清掃してください。

このときポイントに、著しい凹凸や汚れがないか合せて点検してください。

ポイントのすきまは、2個のロックスクリューをゆるめて、アジャストスクリューで調整します。ポイントすきまは0.45~0.55mmです。

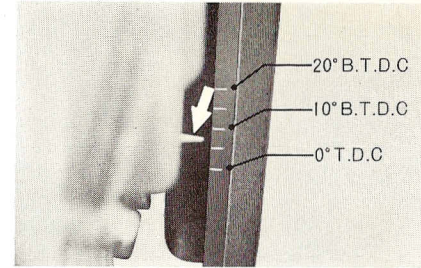


☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 簡単な保守と整備

※ イグニッションタイミング

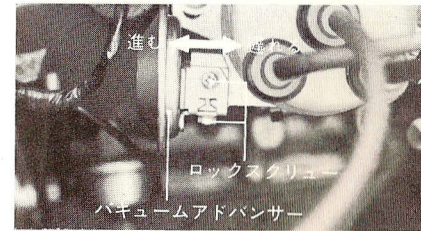
上死点前 14°/650~700rpm が標準です。

点検にはタイミングライトを使用します。クランクプリー・マークはそれぞれ上死点、上死点前 10° および 20° を示します。



調整は左図のロックスクリューをゆるめ、バキュームアドバンサーを動かして行ないます。

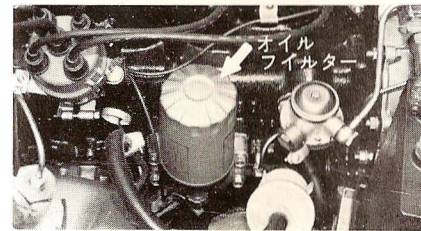
針をA方向に動かすとタイミングは進み、R方向で遅れます。



※ オイルフィルター

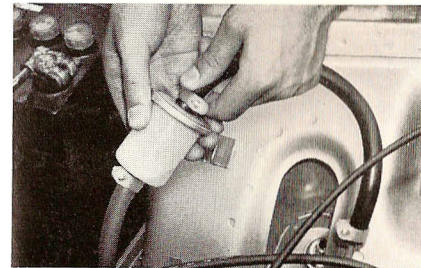
カートリッジ式です。

初回は1,000km時、その後は 10,000kmごとにカートリッジで交換してください。



※ フューエルフィルター

カートリッジ式です。20,000km ごとにカートリッジで交換してください。

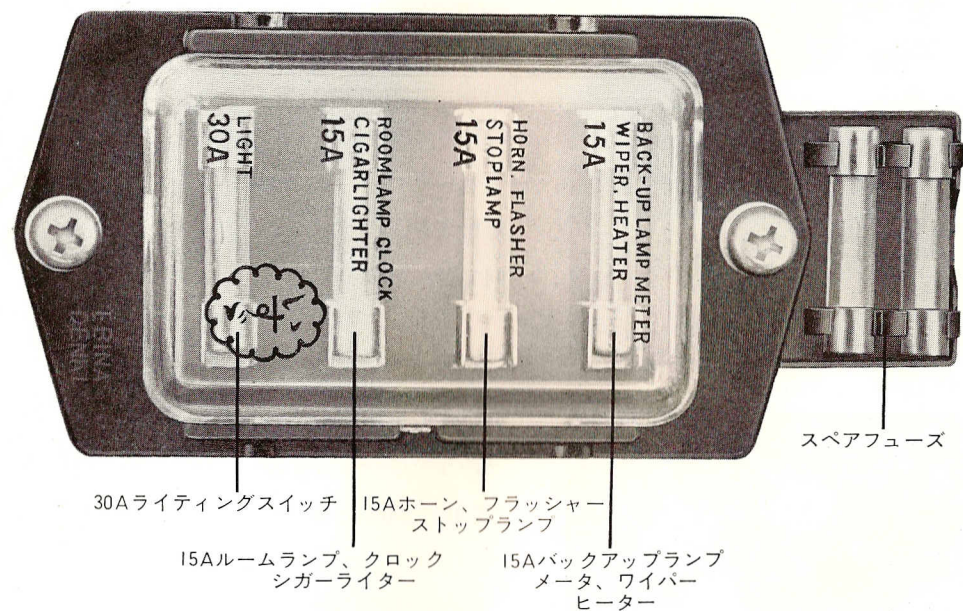


簡単な保守と整備 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※ フューズボックス

エンジンルーム後部にあります。

4本の使用フューズの他に、2本のスペアフューズがついています。



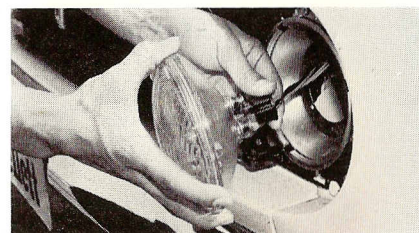
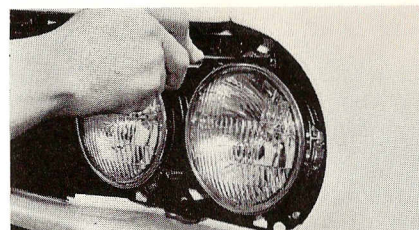
⚠️フューズが切れたときは、その原因を調べ、修理してから規定アンペア容量のフューズを取り付けてください。

⚠️アクセサリ類、特別な装置を取り付ける場合は、その消費電力に合ったフューズ回路を別個に設けるとともに、ケーブルの太さ、通し方、クリップについても十分注意してください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 簡単な保守と整備

※ ヘッドランプ

ビス4本をはずし、リムを取りはずします。
レンズ枠のビス3本をはずせばヘッドランプがはずせます。



ヘッドランプはシールドビームです。
外側ランプは50/37.5W
内側ランプは37.5Wです。

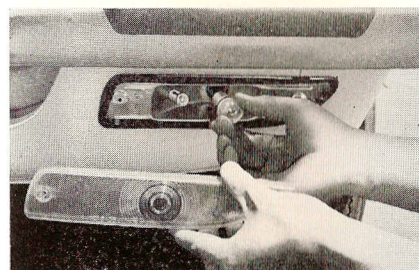
※ フラッシャー、クリアランス & パーキングランプ

レンズのビス4本をはずすと、レンズがはずれます。

バルブは、少し押し込んで左へ回してはずします。

バルブは、フラッシャー・クリアランス
ランプは23/8W

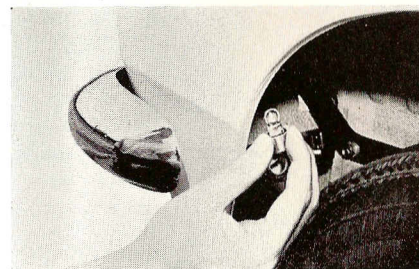
パーキングランプは 3.4Wです。



※ サイドフラッシャー・ランプ

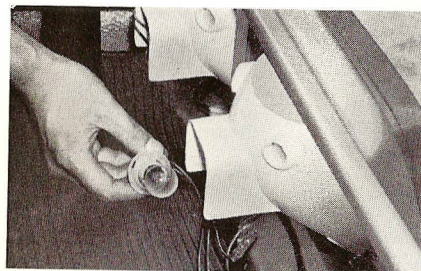
フェンダーの内側から、ダストカバーとソケットを一体で引き出してから、バルブを取りはずします。

バルブは3.4Wです。

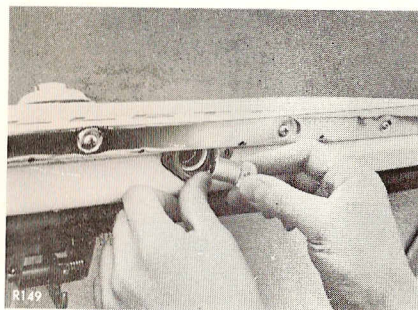


簡単な保守と整備 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

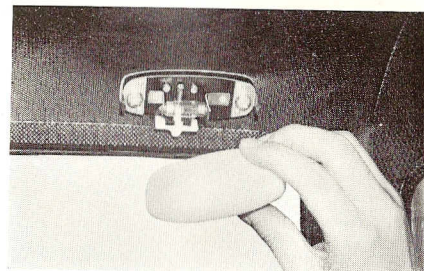
※ リヤ・コンビネーションランプ
ソケットを左に回し、バルブを取り出して交換します。
バルブは、フラッシュランプ23W
ストップ・テールランプ23/8W
パーキングランプ3.4W
バックアップ・ランプ23Wです。



※ ナンバープレート・ランプ
トランクリッド内側から、レンズ裏側のパッキンをはずすと、バルブがはずれます。
バルブは 8Wです。

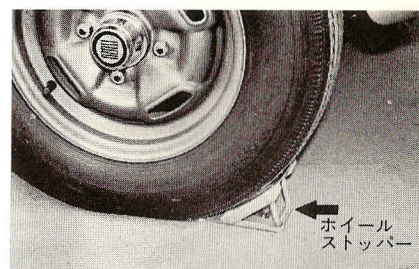


※ ルームランプ
手で白色レンズを軽く引くと、レンズは容易にはずれます。
バルブは 5Wです。

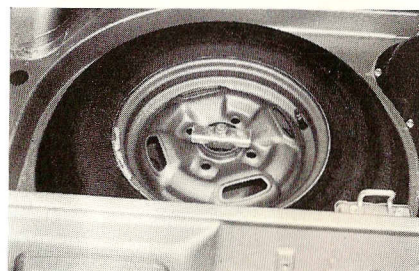


簡単な保守と整備 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

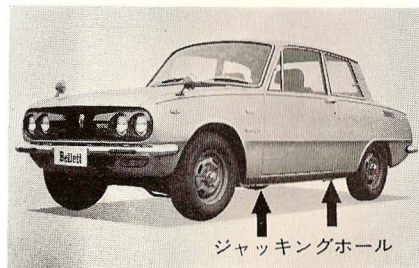
※ タイヤの交換
バンクなどでタイヤを交換するときは、なるべく地面の固いところを選びます。



① フロントタイヤをはずす場合は、パーキングブレーキを十分かけ、リヤタイヤをはずす場合には、フロントタイヤにホイールストッパー（輪止め）をかけます。

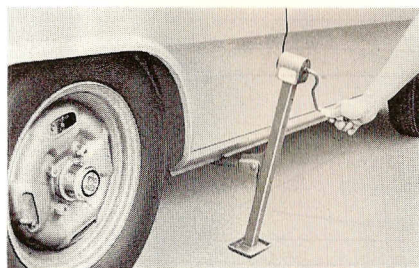


② スペアタイヤを取り出します。スペアタイヤのセットボルトはホイールレンチではずします。



③ ホイールレンチでホイールナットを少しゆるめます。

④ 交換するタイヤに近いジャッキングホールにジャッキをセットします。



⑤ タイヤと地面が2cmくらいあくまで静かにジャッキアップして、ホイールナットをはずし、タイヤを交換します。

⑥ ナットは平らの方を外側にして仮締めし、ジャッキをおろします。

ボデーの手入れ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※ ワックスがけ

塗装面にワックス分がないと、光沢を失い塗膜の老化を早めます。1カ月に1～2回ワックスをかけてください。

① まず、洗車して水気を取り、乾いたのち、ポリッシュを少量布にしみこませて軽くこすり古いワックスを取ります。

② 次に良質のワックスを柔かい布で表面の光沢が少し濁る程度にまんべんなく塗布します。

③ 塗布したワックスが乾いてから、ワックス分のついていない別の柔らかい布で磨き上げます。

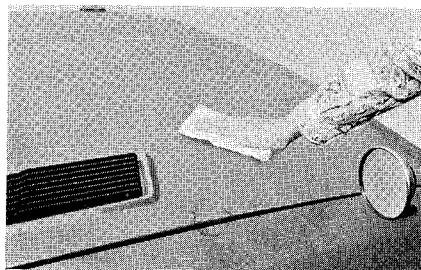
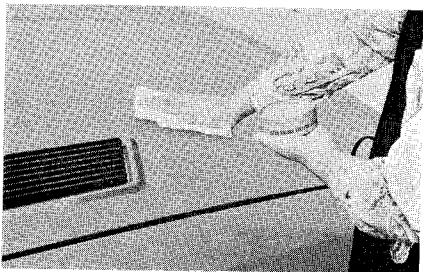
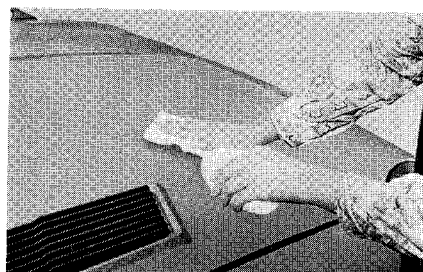
※直射日光などで塗装面が熱いときは、ワックスがけはなるべく避けてください。

※古いワックスを除かず新しいワックスを塗布しますと、光沢が低下したり変色を生ずる原因になります。

※ほこりの多いところでは、帯電防止剤入りの《いすゞ純正オートワックス・デリカ》をご使用ください。

※ 塗装の保護

塗装面に異物が付いたままにしておきますと、塗装に化学変化が生じ、シミ・変色などの原因になります。次のような場合には、できるだけ早く洗車して異物を洗い落とし、ワックスをかけておくようにしてください。



☆☆ ボデーの手入れ

① 塗装面に油脂類、煤煙、昆虫の排泄物などがついたとき。

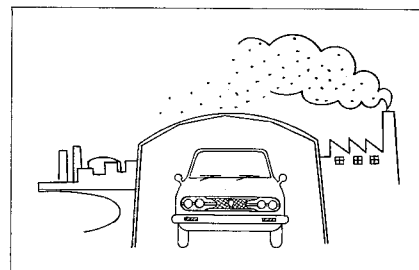
② 雨天のとき、悪路を走行したあと。

③ 海岸地帯などで塩水がついたり、潮風に当たったとき。

④ 凍結防止剤などを散布してある道路を走ったあと。

※飛石などで塗面に小さな傷がついたときは車載の補修用塗料で筆塗りしてください。

※海岸地帯や工業地帯では異物の付着する機会が特に多くなりますので、中は車庫に入れるか、カバーをかぶせるなど駐車時にも十分注意してください。



※ メッキの手入れ

メッキ部分は毎週、上質の中性石けんを用いて洗い、よく水洗いしたのち、水分をふき取り、ワックスがけをしてください。

※ シートや天井の手入れ

シートや天井のレザーの汚れは《いすゞ純正レザークリーナー》を使って取り除きます。

※ ガラスの清掃

ガラスの清掃には、石けん水を使います。ワイパーの部分をふくときは、ワイパーブレードを持ち上げてからふいてください。

※絶対にワイパーを作動方向に動かさないでください。



簡単な故障診断 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ハイテンションコード先端での発火は良い——
スパークプラグの不良。

混合気が濃すぎる——チョークしすぎている。
(この場合は、アクセルペダルを踏みっぱなしにしたまま、数回スターターを回してください。)

※ エンジン不調

① 力がない。 この場合は《いすゞサービス網》へご相談ください。

② ミスファイア（失火）する。 スパークが不規則——

- スパークプラグの汚損。
- ボイントの不良。

スパークは普通——

- 混合気が濃すぎる。
- キャブレターにガソリンが十分こない。
- ガソリンに水分混入。

③ オーバーヒート。 冷却液量の不足。
点火時期が狂っている。
ファンベルトのゆるみ、または滑り。
オイルの不足、または不良。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 簡単な故障診断

※ 走行中にエンジンが急停止した

- ① ガソリンがない。
- ② ガソリンがこない。 燃料系統の点検。
- ③ キャブレターにガソリンがある。 オーバーフローする。
— フロートの沈み、または引掛り。
— エンジンの加熱。
- ④ 電気系統の故障。 ハイテンションコード先端での発火は良い——
・ スパークプラグの破損。
発火しない。
— 電線のゆるみ、途中ショート。
— ディストリビューター・ボイントの故障。
— コイルコンデンサーの不良。
- ⑤ 異音とともに急停止。 機構上の故障。

※ 燃料消費が異常だ

不必要に回転を上げている。
キャブレターの調整不良。
点火時期が狂っている。
チョークのもどりが悪い。
ガソリンの品質が悪い。
クラッチが滑っている。
ブレーキの引きずり。
タイヤの空気圧不足。
低速ギヤの使用が多い。

簡単な故障診断 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※ ブレーキの効きが悪くなった

- | | |
|------------------------------|--|
| ① ブレーキペダルを踏むと弾力を
感じる。 | ブレーキ系統にエアが混入。 |
| ② ブレーキペダルを踏んで、床面
との距離が減少。 | ブレーキ液が不足している。
ブレーキライニングの摩耗。
(ブレーキ液量の点検とブレーキ調整を行なってく
ださい。) |
| ③ ブレーキの踏みしろは正常 | ブレーキライニングが滑る。
ブレーキライニングの摩耗。
ブレーキドラムに水が入っている。 |

※ ステアリング操作が円滑でない

- | | |
|---------------------------------|--|
| ① 走行中、ステアリングホイール
が重い。 | タイヤの空気圧不足。
ホイールアライメント不良。 |
| ② 走行中、ステアリングホイール
が振れる。 | ホイールバランス不良。
ホイールアライメント不良。 |
| ③ 走行中、ステアリングホイール
を取られる。 | タイヤの空気圧が不揃い。
タイヤの外径が不揃い。
ホイールアライメント不良。 |
| ④ ブレーキを踏むと、ステアリン
グホイールを取られる。 | タイヤの空気圧が不揃い。
タイヤの外径が不揃い。
ブレーキの片効き。 |

☆☆ 仕様

PR60RSD 1800スポーツ

諸元	車型	PR60RSD
車両寸法 (mm)		
車両全長		4015
車両全幅		1495
車両全高		1380
ホイールベース		2350
トレッド (前)		1260
	(後)	1240
最低地上高		160
重量 (kg)		
車両重量		930
車両総重量		1205
乗車人員		5
性能		
最高速度 (km/h)		175 (推定)
登坂能力 (tan α)		0.53
最小回転半径 (m)		5.0
制動距離 (m)		13.5 (初速50km/h)
エンジン		
名称		G180SS
型式		{水冷4サイクル {頭上カム軸式
内径×行程 (mm)		82×84
シリンダー数		4
総排気量		1817
圧縮比		9.7
最高出力 (PS/rpm)		115/5800
最大トルク (m-kg/rpm)		15.5/4200

仕様は予告なく変更することがあります。

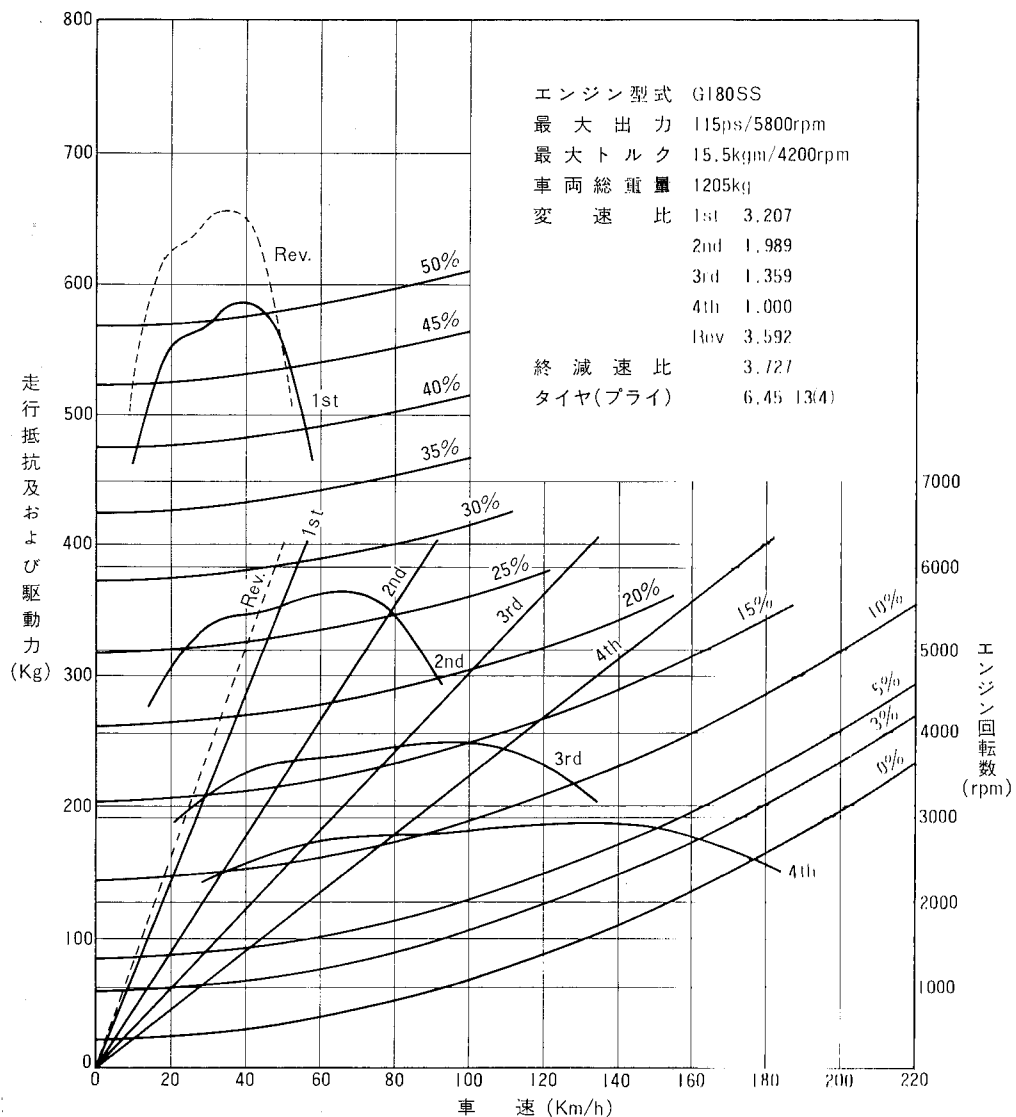
諸元	車型	PR60RSD
弁すき間 (mm)		吸気0.10 (冷) 排気0.15 (冷)
点火装置		
点火時期 B.T.D.C($^{\circ}$ /rpm)		14/650~700
点火順序		1-3-4-2
点火早め装置		真空式および真空式
ディストリビューター		
ポイントすき間 (mm)		0.45 0.55
スパークプラグ		{B.P.6E4または {L45PW
火花すき間 (mm)		0.7 0.84/±0.8 0.9
燃料装置		
キャブプルーター型式		SUI型
エアークリーナー		ビスカス式
フューエルタンク容量		46ℓ
潤滑方式		トロロイド式、 ω による強制循環式
オイルフィルター		カートリッジ式
冷却方式		加水強制循環式
バッテリー		
型式		NS40Z
電圧(V)-容量(AH)		12-35
接地電極		(-)
ジェネレーター		
電圧(V)-容量(A)		12 35
スターター		
電圧(V)-出力(KW)		12 1.0

仕様 ☆☆☆

諸元	車型	PR50RSD
クラッチ		
型式		乾燥単板ダンパー付
作動方式		リンク式
トランスミッション		
型式		4段オールシンクロ フロアダイレクト コントロール
変速比		
第1速		3.207
第2速		1.989
第3速		1.356
第4速		1.000
後退		3.592
リヤアクスル		
減速比		3.727
駆動方式		ハイポイドギヤ
ステアリング装置		
型式		ラックピニオン式
カジ取り角度(内)		33°
“(外)		31°30'
ステアリングホイール 径(mm)		390
前車軸		
型式		ウィッシュボーン・ボール ジョイント式
トーイン(mm)		2(標準荷重時)
キャンバー		1°45'(標準荷重時)
キャスター		15'(標準荷重時)

諸元	車型	PR50RSD
キングピン角度		7°15'(標準荷重時)
ブレーキ		
型式(フット)		油圧式4輪制動
前輪		ディスク式
後輪		リーディング・トレー リング式
(ハンド)		内部拡張機械式後2輪 制動
作動液		いすゞ純正ブレーキ液 HGスーパー
懸架装置		
前輪懸架方式		ウィッシュボーン・コ イルスプリング式独立 懸架
後輪懸架方式		スイング式独立懸架
ショックアブソーバー		
型式(前後共)		筒型油圧複動式
タイヤ		
型式(前後輪)		6.45-13-4PR
空気圧(kg/cm ²)		通常走行時 前1.5 後1.7 連続高速走行時 前1.8 後2.1

☆☆ 走行性能曲線

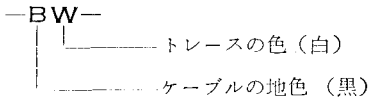


配線図 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

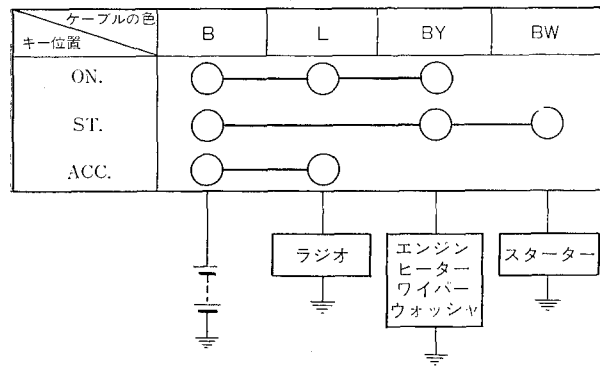
ケーブルの色

配線図中のケーブルの色は、次のように表示されています。たとえば、スタータースイッチ部にBWの記号がありますが、BWはブラックホワイトの頭文字を表わし、黒地に白色のトレース（線）が入ったケーブルを表わします。

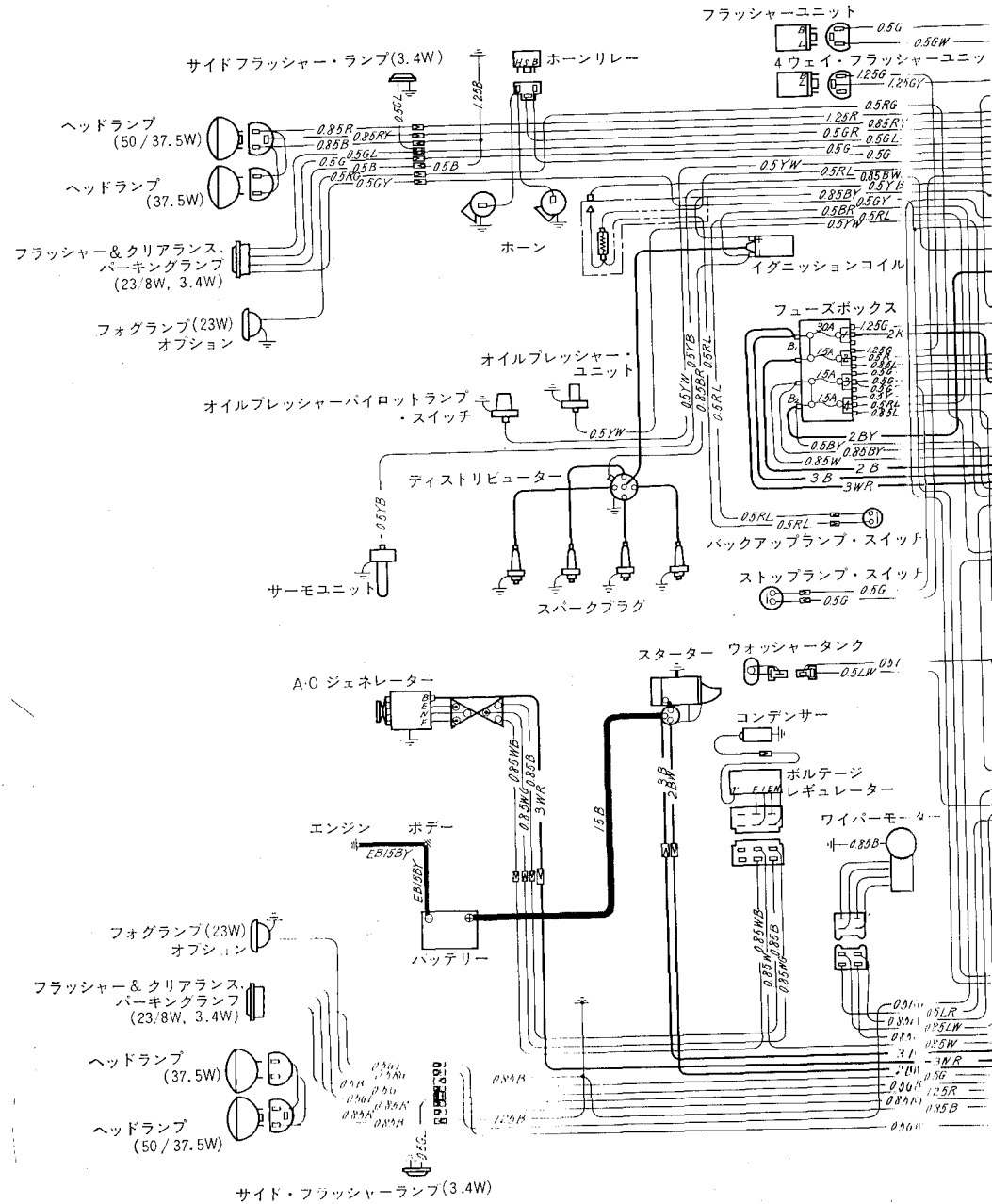
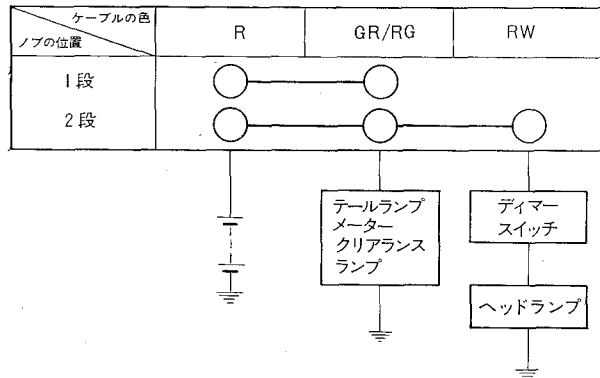
記号	B	W	R	G	Y	L	O
色	黒	白	赤	緑	黄	青	橙

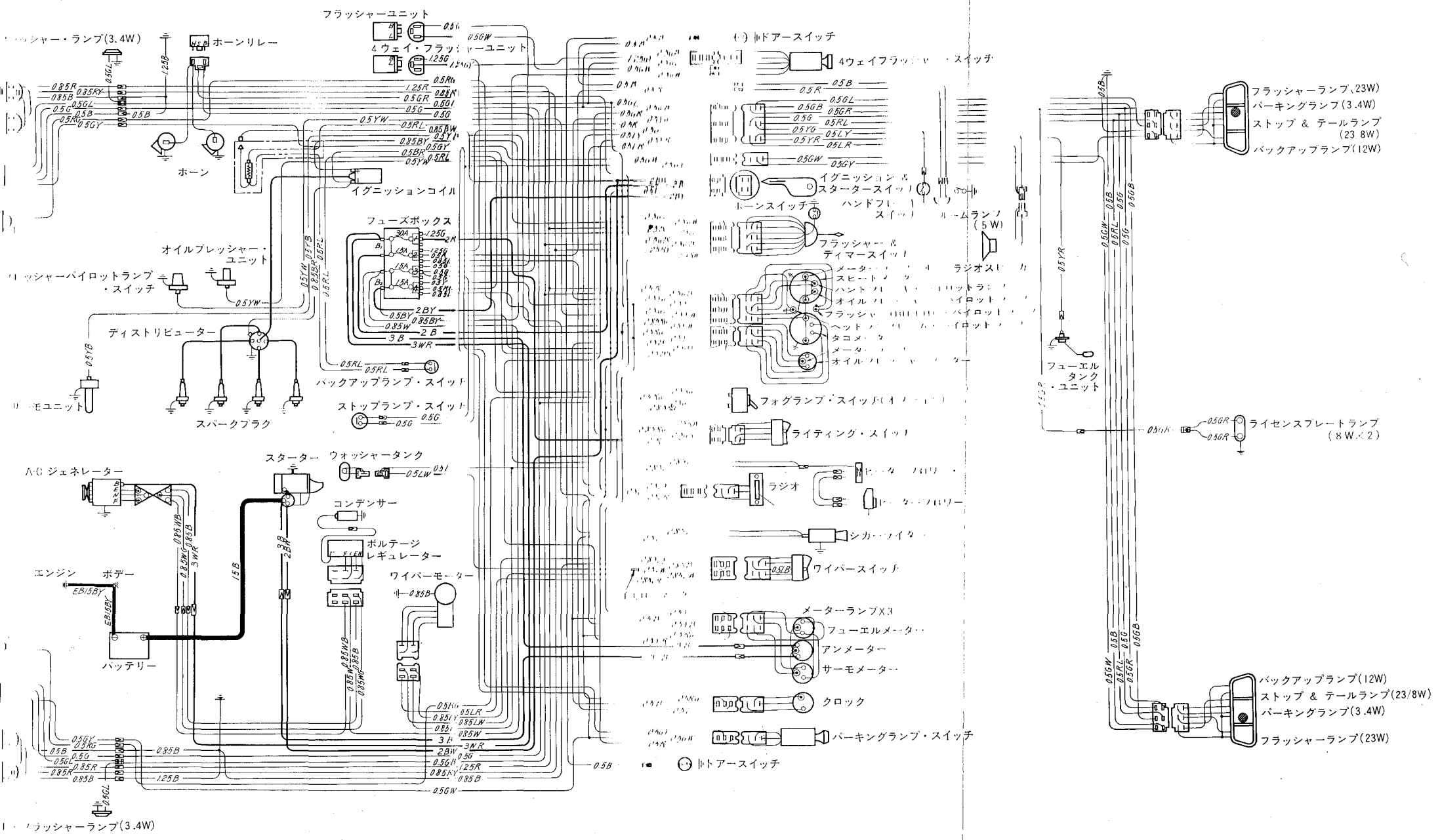


イグニッション、スタータースイッチの接続



ライティングスイッチの接続





フラッシャーランプ (3.4W)

フラッシャーランプ (23W)
パーキングランプ (3.4W)
ストップ & テールランプ (23/8W)
バックアップランプ (12W)

バックアップランプ (12W)
ストップ & テールランプ (23/8W)
パーキングランプ (3.4W)
フラッシャーランプ (23W)

作業点検項目一覧表 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 定期交換部品項目表

点検箇所	点検内容
かじ取りハンドル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 著しい遊びまたはたがたがないこと。 2. 異常に振れたり、取られたりまたは重かったりしないこと。
ブレーキ	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレーキペダルの踏みしろが適当で、ブレーキのききが十分にあり、かつ、片ききがないこと。 2. ブレーキの液量が十分であること。 3. ブレーキ・レバーの引きしろが適当で、かつ、ブレーキのききが十分であること。
タイヤ	<ol style="list-style-type: none"> 1. タイヤの空気圧が適当であること。 2. き裂および損傷がないこと。 3. 異常な摩擦音がないこと。 ※4. 溝の深さが十分であること。 ※5. 金属片、石、その他の異物がたかないこと。
シャシーばね	<ul style="list-style-type: none"> ☆☆☆☆ シャシーばねに折損がないこと。
原動機	<ol style="list-style-type: none"> 1. 排気の色が不良でないこと。 ※2. ラジエーター等の冷却装置から水漏れがないこと。 ※3. 冷却水量が十分であること。 ※4. ラジエーター・キャップが確実に装着されていること。 ※5. フランス・ペダルの張り具合が適当であり、かつ、フランス・ペダルに損傷がないこと。 ※6. オイルの量が適当であること。
燃料装置	<ul style="list-style-type: none"> ※ 燃料の量が十分であること。
乗車装置	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォー・ロックスが正常であること。 2. 座席ベルトに損傷がなく、かつ、確実に取付けられていること。
物品積載装置	物品を安全かつ、確実に積載できること。
灯火装置	点滅具合が不良でないこと、かつ、汚れおよび損傷がないこと。
警告器、方向指示器および窓ふき器	作用が不良でないこと。
後写鏡および反射鏡	写影が不良でないこと。
反射器および自動車登録番号または車両番号標	汚れおよび損傷がないこと。
計器	作用が不良でないこと。
前日の運行において異常が認められた箇所	当該箇所に異常がないこと。

(注) ※印の点検は、80キロメートル毎時以上で走行することが可能な道路を走行する予定がない場合には、行なわなくてもよい。

運行上の安全を常に確保するため、車の使用者は作業点検および定期点検を必ず実施するよう法令で定められておりますが、安全性をより高めるため、特に安全面に関係のある下表の定期交換部品について定期交換を行なうようお願いいたします。

交換部品名	交換時期	備考
ブレーキ・マスタ・シリンダー、ホイールシリンダーのピストンカクツ、ダストシールなど	2年ごと	リベンジキットで交換する
ブレーキホース	4年ごと	
ブレーキホースのハンガースプリングおよびスプリングハンガー	4年ごと	
フューエルホース	4年ごと	

これらの部品はご使用中に材質が変化したり、摩耗や劣化などがあるので、定期点検などにより、その程度を判定することが難しいため、一定の使用期間後には特に異常が認められなくとも新品と交換して、常に完全な機能を維持する必要があります。

これらの部品は期間前でも、万一何らかの異常が見された場合は、修理または交換を行なってください。

この定期交換時期は、自家用の標準的な使用条件を基準として定められております。なお、定期交換と保証処理とは別の関係のものでございます。

いすゞベレット1600スポーツの定期点検はこの点検整備方式に従って励行されるようお願いいたします。

- 1) 「●」印は法規で義務づけられた点検時期を示し、「○」印はそのほかいすゞ自動車では推奨することを示す。
- 2) 「※」印は初期点検(新車点検)のみを示す。なお、自家用と事業用等とで異なるものは上段に自家用、下段に事業用等を示す。
- 3) 「☆」印は定期交換部品を示す。その交換時期は標準的な使用条件を基準として定めてあります。

点検整備方式

点検整備項目	点検整備時期						判定基準	備考
	仕業	自家用 6か月	自家用 12か月	事業用等 1か月	事業用等 3か月	事業用等 12か月		
ステアリングホイールの遊び、ゆるみおよびがた	●	●	●	●	●	●	※3	標準 ステアリングホイールの外周で約5mm
ステアリングホイールの操作具合	●	●	●	●	●	●	※3	
ギヤボックスからの油漏れ		●	●	●	●	●		
ギヤボックス取付けのゆるみ			●		●	●	※3	
ギヤボックス軸受部のがた						●		
ロッドおよびアーム類のゆるみ、がたおよび損傷		●	●	●	●	●	※3	がたのある場合は修正 著しい場合は交換
ロッドおよびアーム類の連結部の摩擦および取付状態						●		
ナックルアームのき裂およびナックルとの取付状態						●		
ナックルの結合部のがた			●		●	●		
ナックルのき裂						●		
かじ取り車輪のホイールアライメント			●			●		トーイン; 2mm キャンバー; 1°45' キャスター; 15'
かじ取り車輪の左右の回転角度			●			●		内側; 33° 外側; 31°30'
ステアリング・ギヤボックスのオイル交換							10	シャシーグリース

点検整備項目	点検整備時期						判定基準	備考
	仕業	自家用 6か月	自家用 12か月	事業用等 1か月	事業用等 3か月	事業用等 12か月		
ブレーキペダルの遊びおよび踏み込んだときの床板とのすき間	●	●	●	●	●	●	※3	遊び; 約35mm 床板とのすき間; 60mm以上
ブレーキペダル プレーキのきき具合	●	●	●	●	●	●	※1 ※3	
ブレーキペダルの引きしろの余裕	●	●	●	●	●	●	※3	完全作動範囲; 4~5ノッチ
ブレーキペダル プレーキのきき具合	●	●	●	●	●	●	※1 ※3	
ブレーキペダル・ラチェット部の摩擦および損傷			●			●		
ブレーキペダル・ケーブル類のゆるみ、がた、および損傷		●	●	●	●	●	※3	
ブレーキペダル・パイプの漏れ、損傷および取付状態		●	●	●	●	●	※3	き裂、打痕、錆、接触痕、 摩擦のある場合は交換
ブレーキペダルの流量	●	●	●	●	●	●	※3	
ブレーキペダル・マスターシリンダ におけるブレーキシリンダの機能、 摩耗および損傷			●			●		ピストンとシリンダとの すき間 0.02~0.10mm 使用限度; 0.15mm
ブレーキドラムとブレーキシューとのすき間		●	●	●	●	●		すき間; 0.25mm すき間を0にしてマジック マーカーを2ノッチ厚さ のシムで厚さを; 4.8mm
ブレーキシューの相對位置および ブレーキシューの摩耗			●		●	●		使用限度; 1.5mm
ブレーキドラムの摩耗および損傷			●			●		ブレーキドラム径; 203.2mm
バックプレートの状態						●		使用限度; 205mm
ブレーキディスクとパッドとのすき間	●	●	●	●	●	●		すき間; 0.2mm
パッドの摩耗			●		●	●		パッドの厚さ; 10.1mm 使用限度; 2mm

点検整備方式

点検整備項目	点検整備時期					判定基準	備考
	仕 業	自家用 6 か と 月	事業用 12 か と 月	等 1 か と 月	等 3 か と 月		
制 動 装 置			●		●	ディスクの厚さ；10mm 使用限度；8mm	前輪
					●		
							☆2年ごと
走 行 装 置							☆4年ごと
							☆4年ごと
走 行 装 置					●		
					●		
走 行 装 置		●	●	●	●	●	※3
							標準空気圧 一般走行時 kg cm ² 前；1.5 後；1.7 高速走行時 前；1.8 後；2.1
走 行 装 置		●	●	●	●	●	※3
							タイヤの使用限度 残溝の深さ；1.6mm
走 行 装 置		●	●	●	●	●	※3
							タイヤの金属片、石その他の異物
走 行 装 置		○	●	●	●	●	※3
							締付けトルク 8 m·kg
走 行 装 置			●	●	●	●	
			●	●	●	●	※3
走 行 装 置			●			●	
				●		●	

点検整備項目	点検整備時期					判定基準	備考
	仕 業	自家用 6 か と 月	事業用 12 か と 月	等 1 か と 月	等 3 か と 月		
走 行 装 置							ベアリンググ リス ハブ内；50gr キャップ内； 17gr
							10
走 行 装 置		●	●	●	●	●	※3
			●			●	左右の不同が著しい場合 は交換
走 行 装 置		●	●	●	●	●	※3
			●			●	※3
走 行 装 置			●			●	※3
			●			●	
走 行 装 置			●			●	※3
			●			●	
走 行 装 置		●	●	●	●	●	※3
			●	●	●	●	※3
走 行 装 置			●			●	※1
			●			●	※3
走 行 装 置		●	●	●	●	●	※3
							※3
走 行 装 置			●			●	※3
			●			●	※3

点検整備項目	仕業	点検整備時期					判定基準	備考
		6か月	12か月	1か月	3か月	12か月		
プロペラシャフトの振れ		●		●	●	振れ; 0.3mm以下 要修理値; 0.5mm		
プロペラシャフト・スプライン部の がた		●			●			
プロペラシャフト軸受部のがた		●			●			
プロペラシャフト・フレキシブルジ ョイントの損傷		●			●			
デファレンシャルの油漏れ		●	●	●	●	※1		
ドライブシャフトのおじれおよびき 裂					●			
トランスミッションオイルの交換						※1 40	エンジンオイル 1.25ℓ	
デファレンシャル・ギヤーオイルの 交換						※1 40	ハイポイド ギヤーオイル 0.7ℓ	
点火装置 ディストリビューターの キャップの状態		●	●	●	●			
点火装置 断続器の状態		●	●	●	●	ドエルアングル; 49°~55° ポイントギャップ; 0.45~0.55mm		
点火装置 点火プラグの状態		●	●	●	●			
点火装置 点火時期			●	●	●	B T D C 14°/650~700r. p. m		
点火装置 進角装置の機能			●	●	●			
始動装置 ピニオンのかみ具合			●		●			
充電装置 充電作用		●	●	●	●			
バッテリーの液量	○	●	●	●	●	標準 ※3 注入口の角孔まで		

点検整備項目	仕業	点検整備時期					判定基準	備考
		6か月	12か月	1か月	3か月	12か月		
電気装置			●		●	標準; 1.240~1.270 1.240 以下の場合は補充 電	液温 20°C	
電気配線接続部のゆるみおよび損傷		●	●	●	●	※3	配線のクランプ についても点検 のこと	
バッテリーの取付状態						※3		
エンジンのかかり具合および異音	○	●	●	●	●	※3		
エンジンの低速および加速の状態		●	●	●	●	※3		
エンジンの排気の状態	●	●	●	●	●	※3		
エンジンのエアークリーナー・エレ メントの状態		●	●	●	●	※3		
エンジンのシリンダーヘッドおよび マニホールド各部の締付け					●	※1	締付けトルク シリンダーヘッド; 8.0m·kg マニホールド; 2.0m·kg	
エンジンの中継力		●			●	標準 13.5kg·cm ² 300r. p. m		
エンジンの中継量		●			●	※1	天気: 0.10mm 冷 蒸気: 0.15mm 冷	
ブローバイ・ガス還元装置の・ター ンオーバーの状態		●			●			
ブローバイ・ガス還元装置の配管の 詰りおよび損傷		●			●			
潤滑装置 点検		●	●	●	●	※1		
潤滑装置 オイルの汚れ		●	●	●	●	※1		
潤滑装置 オイルの量	●	●	●	●	●	※1		
潤滑装置 オイルクリーナーの詰り		●		●	●	※1 10		

点検整備項目	仕業	点検整備時期					判定基準	備考
		6か月	12か月	1か月	3か月	12か月		
燃料装置 燃料漏れ		●	●	●	●	●	※3	
燃料の量	●							
キャブレター各部の汚れ		●	●	●	●	●		
キャブレターのリンク機構の状態		●	●	●	●	●		
キャブレターのスロットルバルブおよびチョークバルブの状態		●	●	●	●	●		
キャブレターのスロットルバルブの状態		●	●	●	●	●		
キャブレター調整の状態		●	●	●	●	●		
燃料フィルター詰り			●		●	●	20	カートリッジ式
燃料装置 供給ポンプの機能			○			●		
冷却装置 水漏れ		●	●	●	●	●	※3	
冷却装置 水量		●	●	●	●	●		
冷却装置 機能			●	●	●	●		ゲージ圧; 0.5~0.6kg/cm ²
冷却装置 装着状態	●							
冷却装置 ファンベルトのゆるみおよび損傷		●	●	●	●	●	※1	ファンベルトのたわみ量 約10mm
エンジンオイルの交換							※1 5	ファンプーリーとジェネレータープーリー間で押して判定 エンジンオイル 3.2ℓ
エアークリーナ・エレメントの交換							40	ビスカス式 ペーパーエレメント

点検整備項目	仕業	点検整備時期					判定基準	備考
		6か月	12か月	1か月	3か月	12か月		
原動機							※1 10	カートリッジ式
オイルフィルタ・エレメントの交換								
フューエルホースの交換								☆4年ごと
灯火装置の汚れおよび損傷	●							
灯火装置、警音器、方向指示器および窓ふき器の作用		●	●	●	●	●	※3	
後射鏡の写影の状態		●	●	●	●	●		
反射器および自動車登録番号標または車両番号標の汚れ、損傷	●							
計器の作用		●	●	●	●	●	※3	
エキゾーストパイプおよびマフラーの取付けのゆるみおよび損傷		●	●	●	●	●	※3	
マフラーの機能			●		●	●		
ドアロックの機能		●	●	●	●	●	※3	
車体および車体のゆるみおよび損傷			●		●	●	※3	
窓ガラスの取付状態		●	●	●	●	●		
頭灯・尾灯・立灯の状態		●	●	●	●	●		
その他シャーシ各部の結合状態		●	●	●	●	●	20	
前日の運行において異常が認められた箇所	●							

M E M O

4/A 車検

4/24 4:59:60 子沢和樹 P.O. 0-1-3 後

免許証 No.
書換年月日

エンジンキー No.
トランクキー No.
エンジン No.
ジョーキー No.
自動車登録 No.
自動車検査証 No.
車検期限

損害賠償保険 No.
自動車保険 No.

氏名

住所

TEL

不許複製

ペレット1800スポーツ取扱説明書

編集発行 イチビ自動車株式会社 小型車サービス部

〒140

東京都品川区南大井6丁目22番10号

電話 東京 03 (762) 1111 (大代表)

夜間・休日専用 03 (762) 4201 (代機)



Ballett

2052-0101 (110)